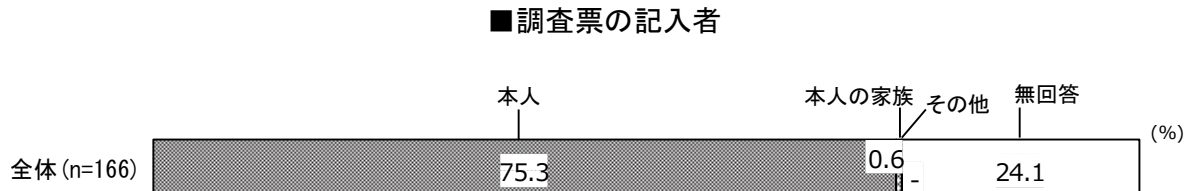


3. 一般介護予防事業参加者調査

(1) 基本属性

① 調査票の記入者 (問1)

調査票の記入者は、「本人」が75.3%となっている。



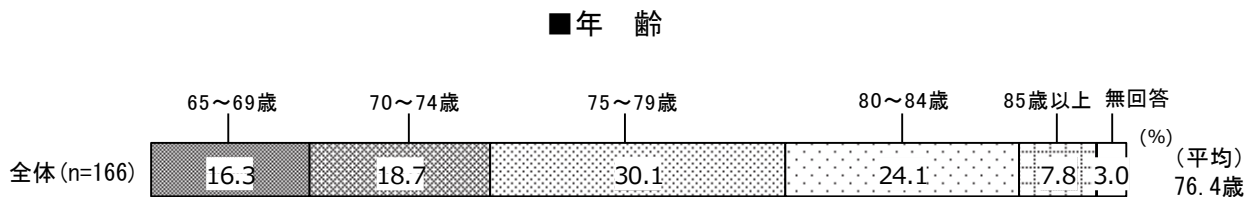
② 性別 (問2)

性別は、「男性」が21.1%、「女性」が75.9%となっている。



③ 年齢 (問3)

年齢は、「75～79歳」(30.1%)が最も多く、「80～84歳」(24.1%)、「70～74歳」(18.7%)と続いている。なお、前期高齢者は35.0%、後期高齢者は62.0%、平均は76.4歳となっている。

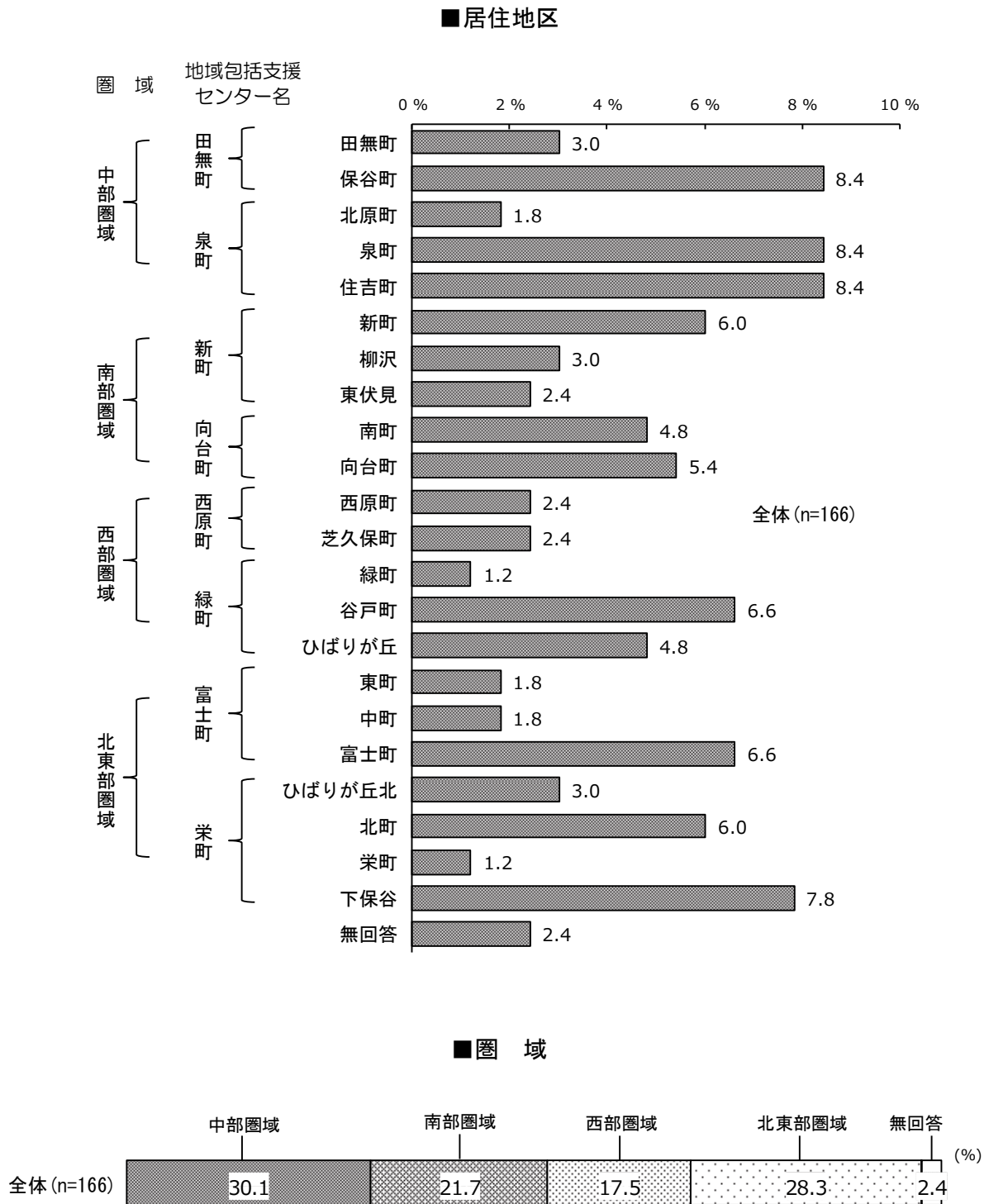


第2章 各調査の結果

④ 居住地区（問4）

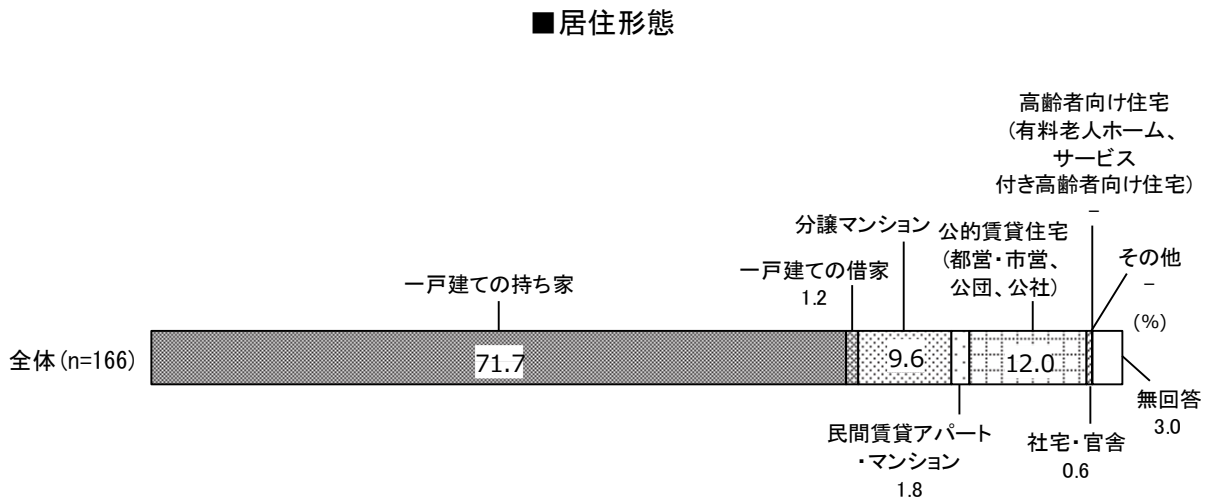
居住地区は、「保谷町」「泉町」「住吉町」（いずれも 8.4%）が最も多く、「下保谷」（7.8%）、「谷戸町」「富士町」（ともに 6.6%）と続いている。

圏域で見ると、「中部圏域」（30.1%）が最も多く、「北東部圏域」（28.3%）、「南部圏域」（21.7%）、「西部圏域」（17.5%）と続いている。



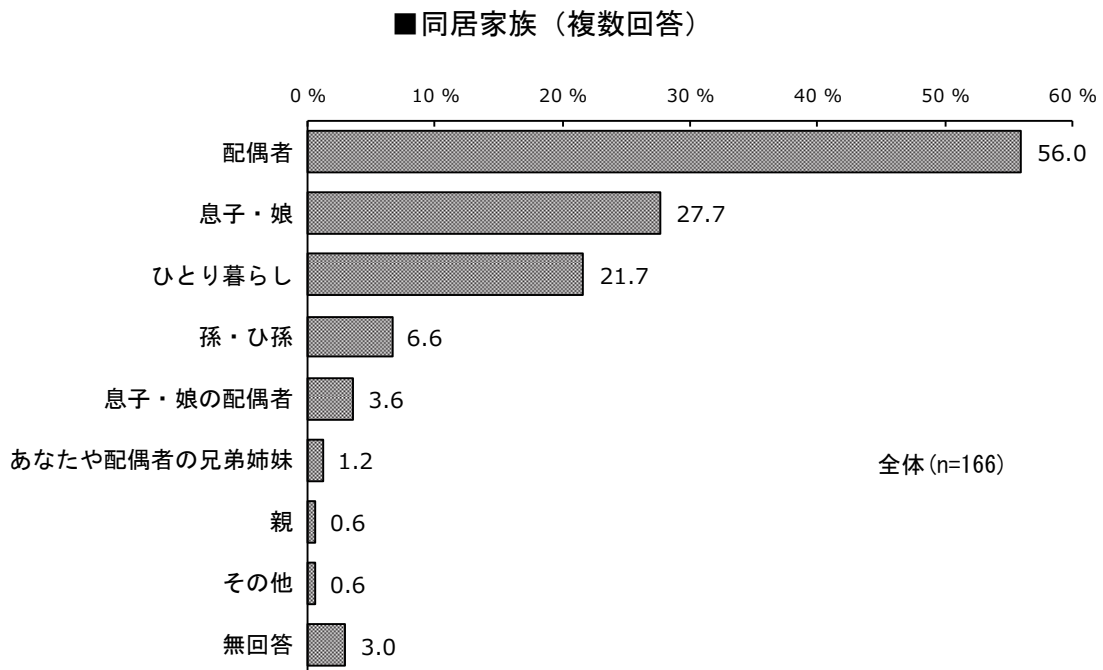
⑤ 居住形態（問5）

居住形態は、「一戸建ての持ち家」(71.7%)が最も多く、「公的賃貸住宅(都営・市営、公団、公社)」(12.0%)、「分譲マンション」(9.6%)と続いている。



⑥ 同居家族（問6）

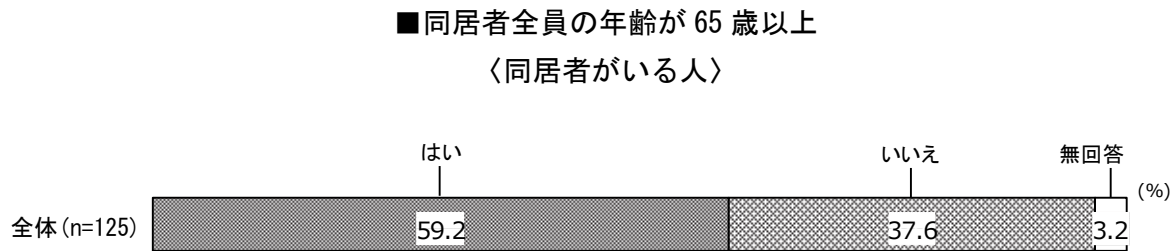
同居家族は、「配偶者」(56.0%)が最も多く、「息子・娘」(27.7%)、「ひとり暮らし」(21.7%)と続いている。



第2章 各調査の結果

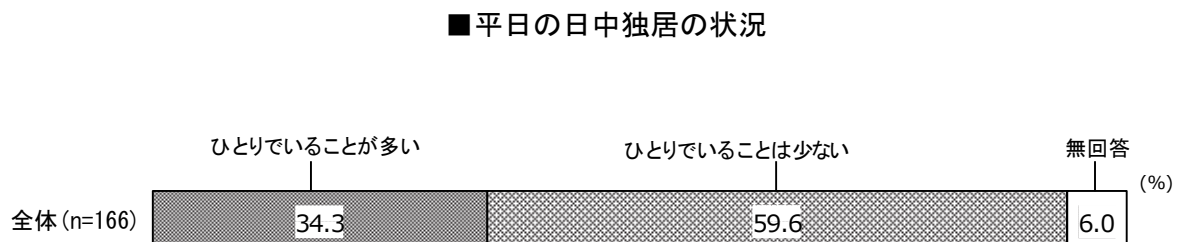
⑦ 同居者全員の年齢が65歳以上（問6付問）

同居者がいる人（問6で「ひとり暮らし」以外に回答した人）の同居者全員の年齢が65歳以上という回答は、「はい」が59.2%、「いいえ」が37.6%となっている。



⑧ 平日の日中独居の状況（問7）

平日の日中独居の状況は、「ひとりであることが多い」が34.3%、「ひとりであることは少ない」が59.6%となっている。

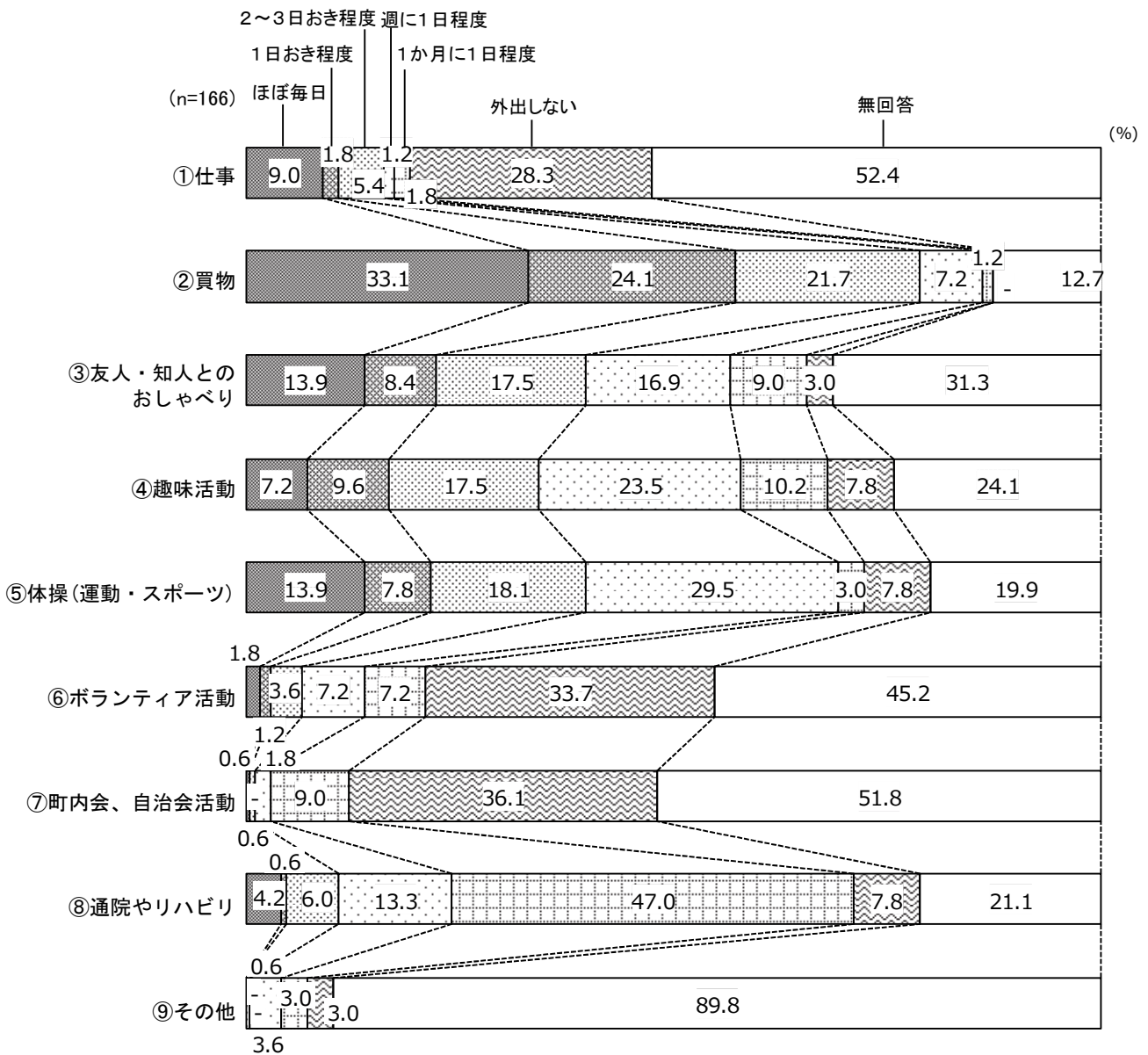


(2) 日ごろの生活

① 外出頻度 (問8)

外出頻度は、仕事は「外出しない」(28.3%)が、買物は「ほぼ毎日」(33.1%)が、友人・知人とのおしゃべりは「2～3日おき程度」(17.5%)が、趣味活動は「週に1日程度」(23.5%)が、体操(運動・スポーツ)は「週に1日程度」(29.5%)が、ボランティア活動は「外出しない」(33.7%)が、町内会、自治会活動は「外出しない」(36.1%)が、通院やリハビリは「1か月に1日程度」(47.0%)がそれぞれ最も多くなっている。

■ 外出頻度



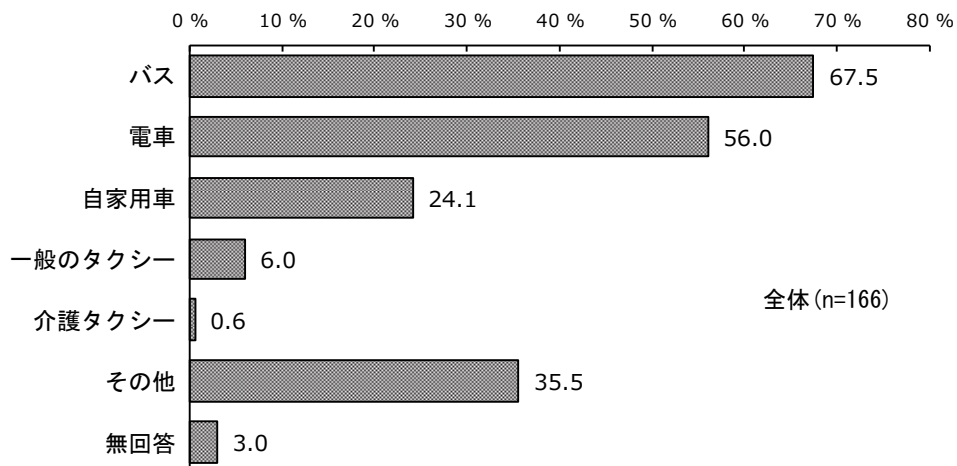
第2章 各調査の結果

	全体(n=166)							(%)
	ほぼ毎日	1日おき程度	程2度〜3日おき	週に1日程程度	程1度か月に1日	外出しない	無回答	
①仕事	9.0	1.8	5.4	1.2	1.8	28.3	52.4	
②買物	33.1	24.1	21.7	7.2	1.2	-	12.7	
③友人・知人とのおしゃべり	13.9	8.4	17.5	16.9	9.0	3.0	31.3	
④趣味活動	7.2	9.6	17.5	23.5	10.2	7.8	24.1	
⑤体操(運動・スポーツ)	13.9	7.8	18.1	29.5	3.0	7.8	19.9	
⑥ボランティア活動	1.8	1.2	3.6	7.2	7.2	33.7	45.2	
⑦町内会、自治会活動	0.6	-	0.6	1.8	9.0	36.1	51.8	
⑧通院やリハビリ	4.2	0.6	6.0	13.3	47.0	7.8	21.1	
⑨その他	-	-	0.6	3.6	3.0	3.0	89.8	

② 外出するときに主に利用している交通手段 (問8付問)

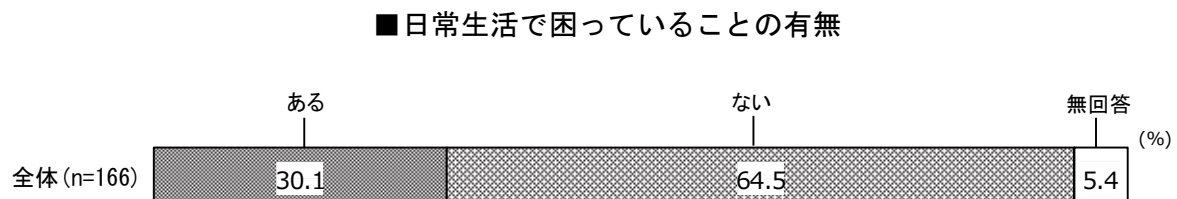
外出するときに主に利用している交通手段は、「バス」(67.5%)が最も多く、「電車」(56.0%)と続いている。

■外出するときに主に利用している交通手段 (複数回答)



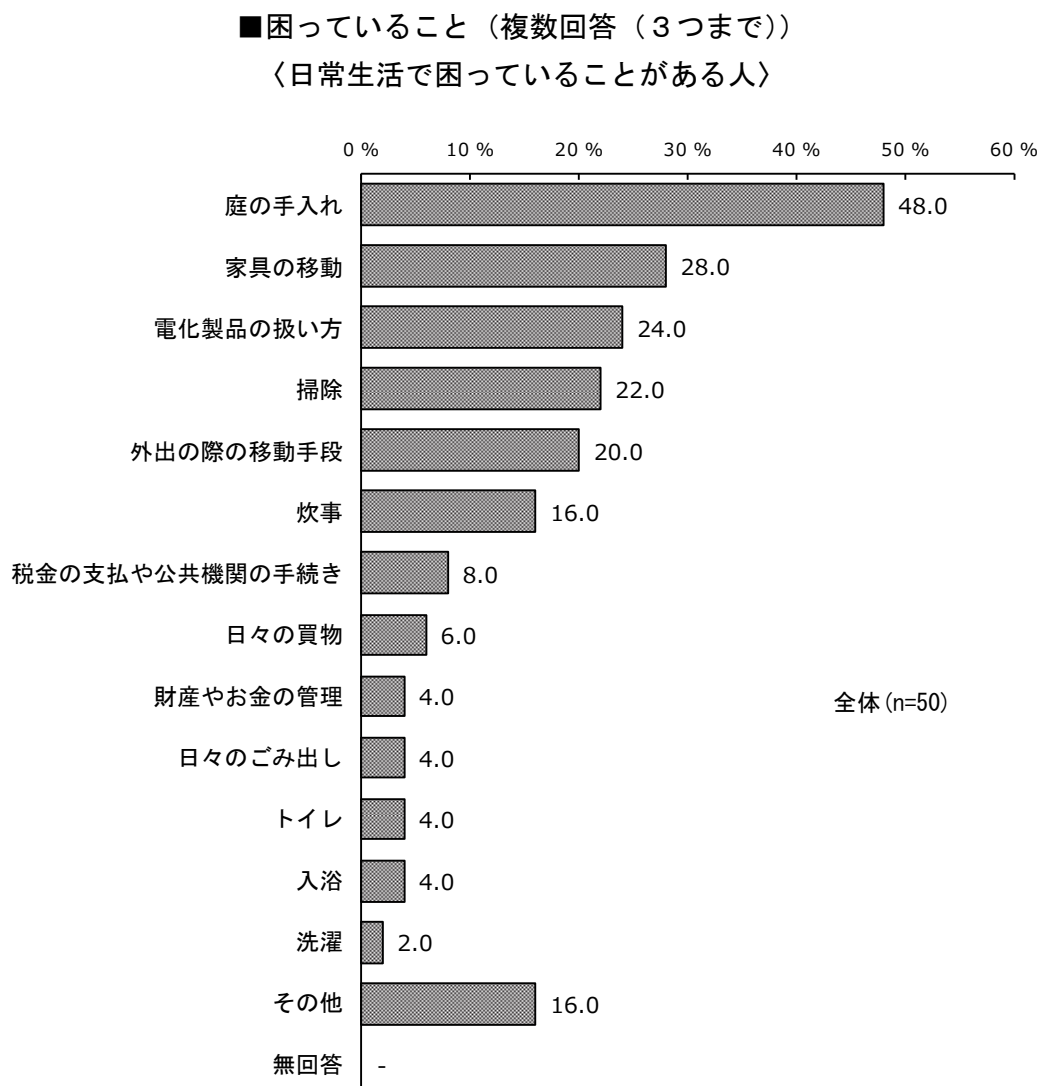
③ 日常生活で困っていることの有無（問9）

日常生活で困っていることの有無は、「ある」が30.1%、「ない」が64.5%となっている。



④ 困っていること（問9付問）

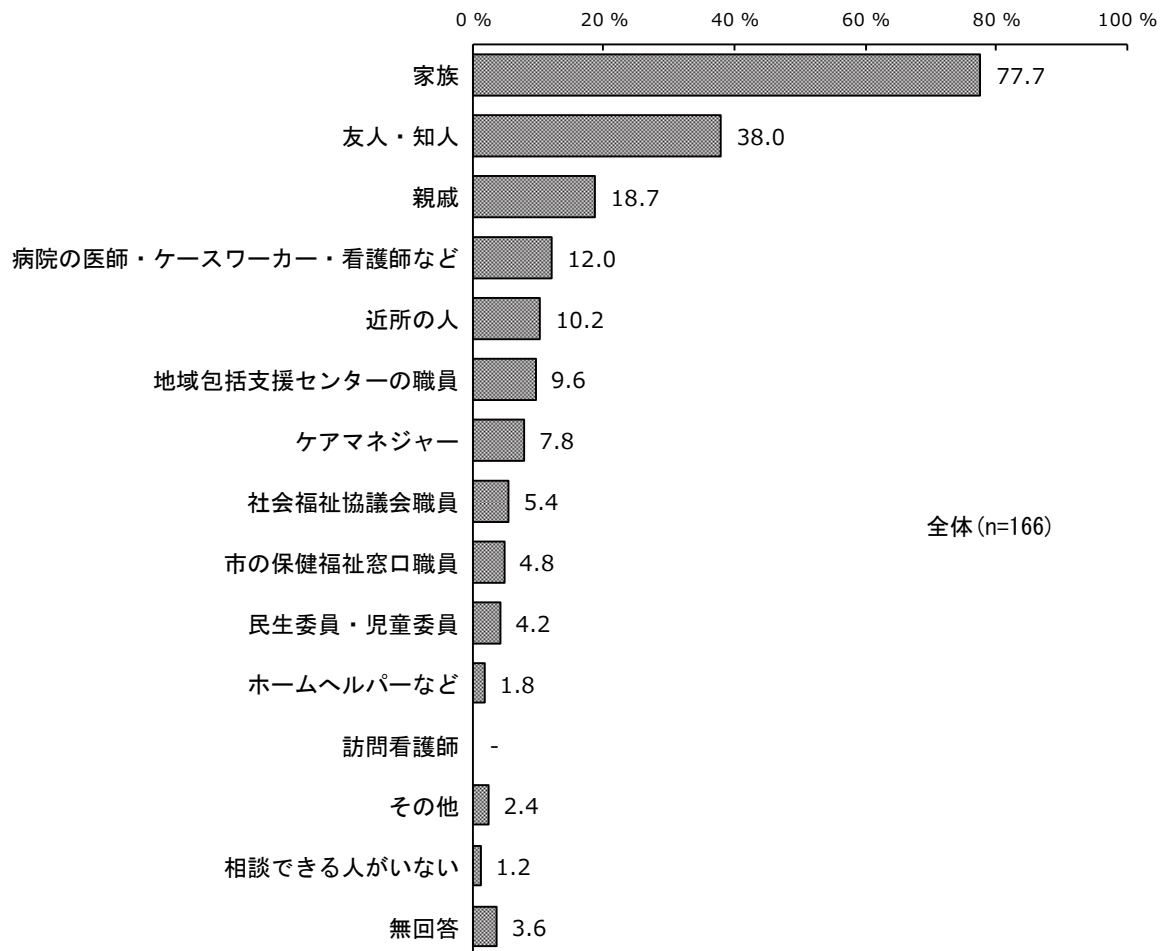
困りごとがあった人（問9で「ある」と回答した人）の日常生活での困りごとの内容は、「庭の手入れ」（48.0%）が最も多く、「家具の移動」（28.0%）、「電化製品の扱い方」（24.0%）と続いている。



⑤ 困りごとの相談先（問10）

困りごとの相談先は、「家族」（77.7%）が最も多く、「友人・知人」（38.0%）、「親戚」（18.7%）と続いている。

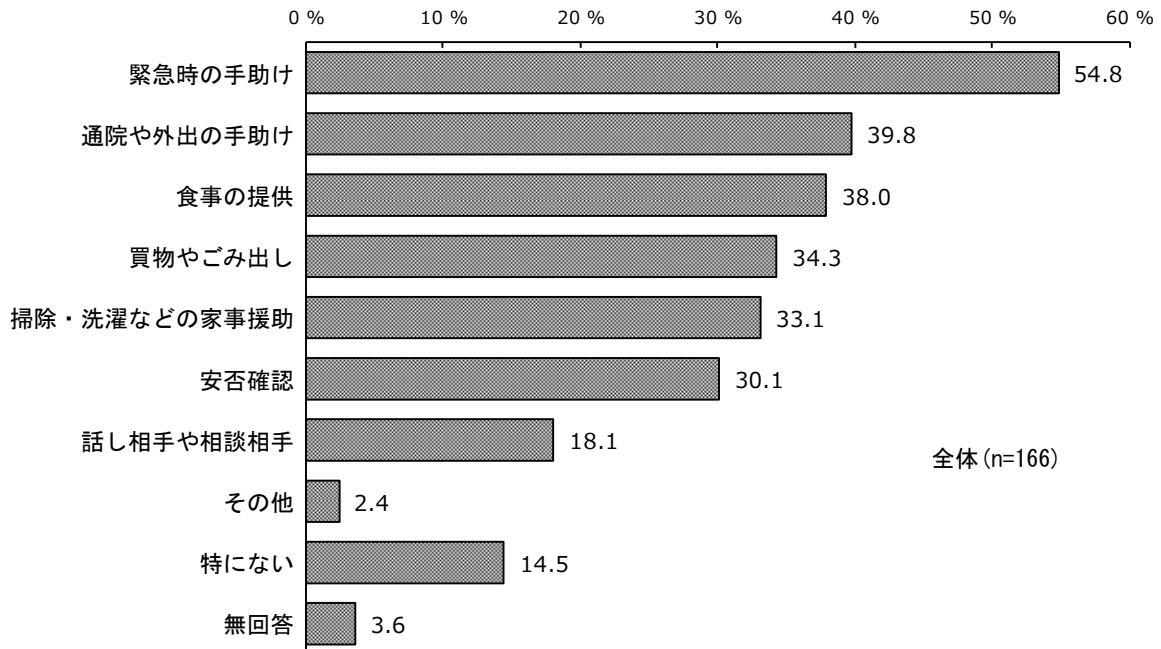
■ 困りごとの相談先（複数回答）



⑥ 不自由な状態になったときに望む生活支援サービス（問 11）

不自由な状態になったときに望む生活支援サービスは、「緊急時の手助け」（54.8%）が最も多く、「通院や外出の手助け」（39.8%）、「食事の提供」（38.0%）と続いている。

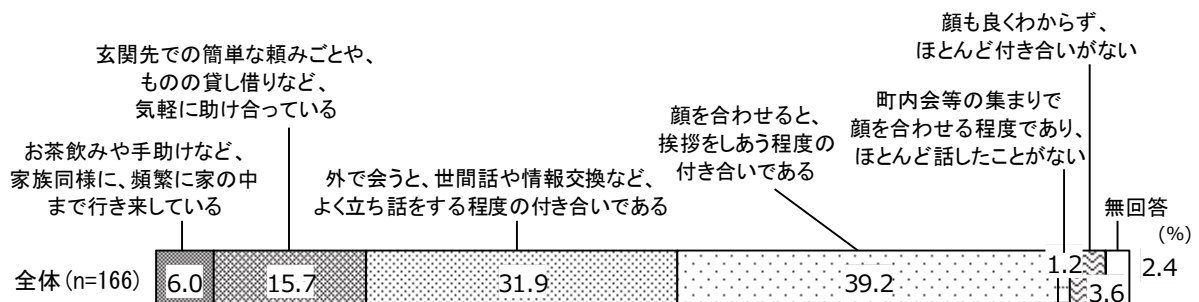
■不自由な状態になったときに望む生活支援サービス（複数回答）



⑦ 近所づきあいの程度（問 12）

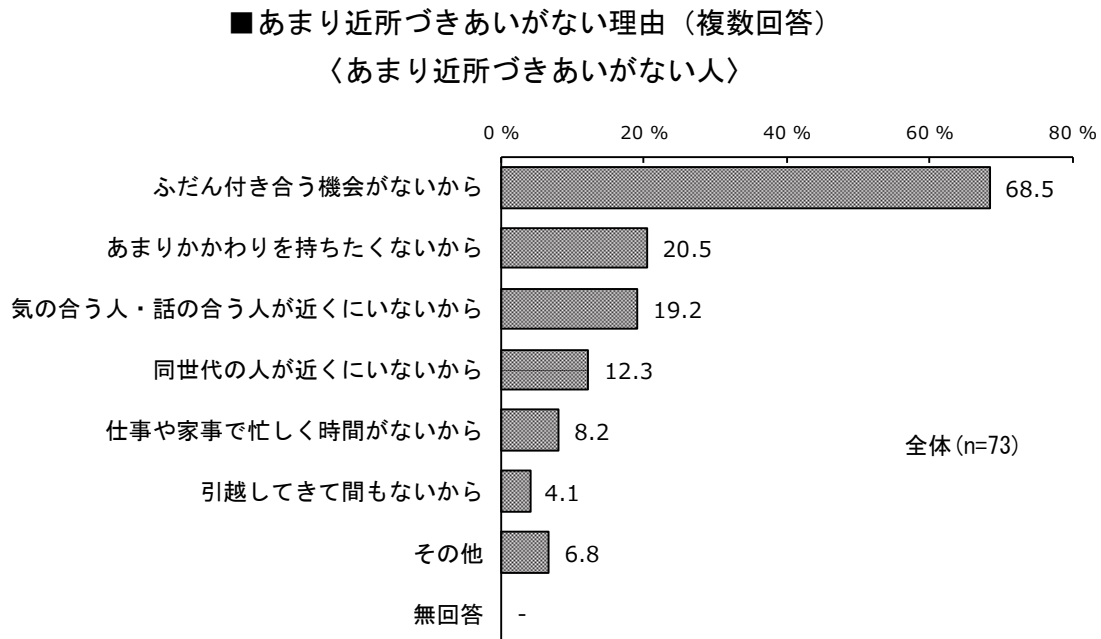
近所づきあいの程度は、「顔を合わせると、挨拶をしあう程度の付き合いである」（39.2%）が最も多く、「外で会うと、世間話や情報交換など、よく立ち話をする程度の付き合いである」（31.9%）、「玄関先での簡単な頼みごとや、ものの貸し借りなど、気軽に助け合っている」（15.7%）と続いている。

■近所づきあいの程度



⑧ あまり近所づきあいが無い理由（問12付問）

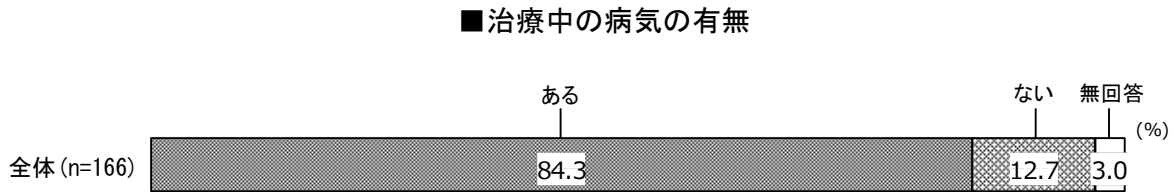
あまり近所づきあいが無い人（問12で「顔を合わせると、挨拶をしあう程度の付き合いである」「町内会等の集まりで顔を合わせる程度であり、ほとんど話したことがない」「顔も良くわからず、ほとんど付き合いがない」と回答した人）の付き合いの無い理由は、「ふだん付き合う機会がないから」（68.5%）が最も多く、「あまりかかわりを持ちたくないから」（20.5%）、「気の合う人・話の合う人が近くにいないから」（19.2%）と続いている。



(3) 医療の状況

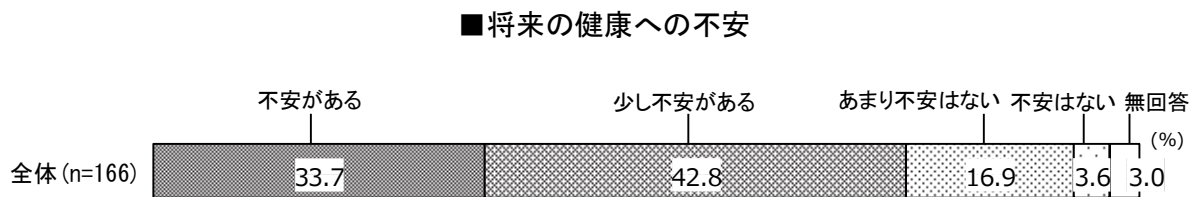
① 治療中の病気の有無 (問 13)

治療中の病気の有無は、「ある」が84.3%、「ない」が12.7%となっている。



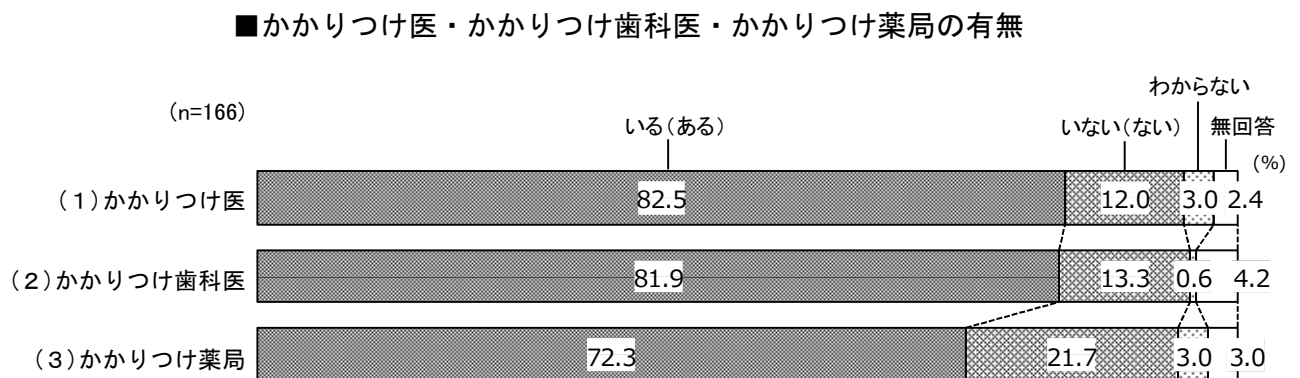
② 将来の健康への不安 (問 14)

将来の健康への不安は、「不安がある」が33.7%、「少し不安がある」が42.8%、「あまり不安はない」が16.9%、「不安はない」が3.6%となっている。



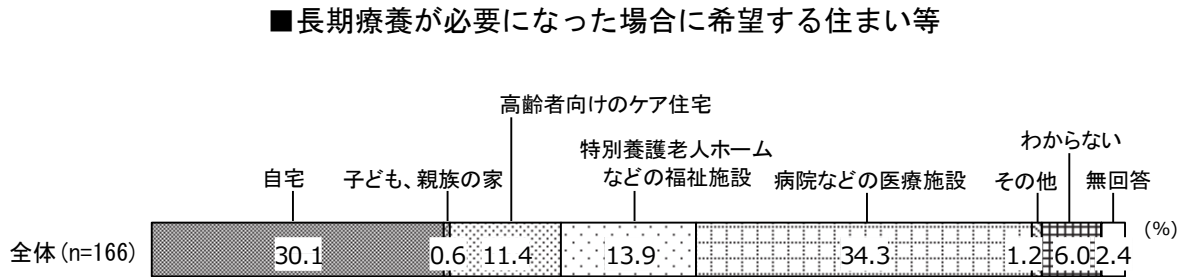
③ かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無 (問 15)

かかりつけ医が「いる」は82.5%、かかりつけ歯科医が「いる」は81.9%、かかりつけ薬局が「ある」は72.3%となっている。



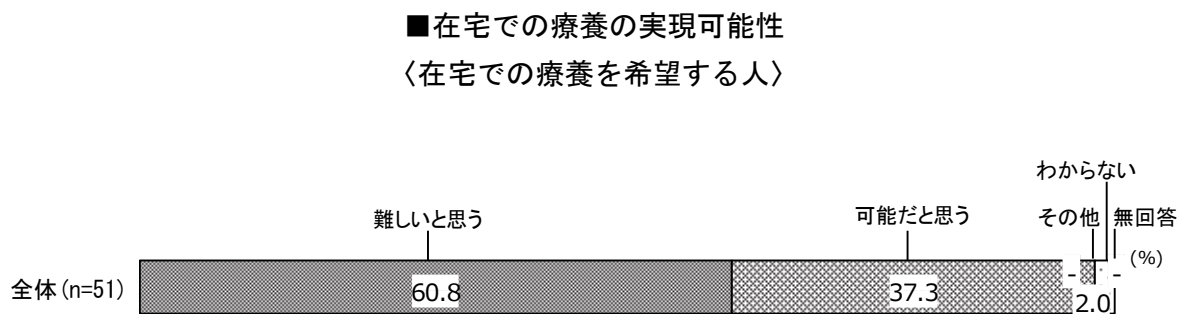
④ 長期療養が必要になった場合に希望する住まい等（問16）

長期療養が必要になった場合に希望する住まい等は、「病院などの医療施設」（34.3%）が最も多く、「自宅」（30.1%）、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」（13.9%）と続いている。



⑤ 在宅での療養の実現可能性（問16付問1）

在宅での療養を希望する人（問16で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「難しいと思う」が60.8%、「可能だと思う」が37.3%となっている。

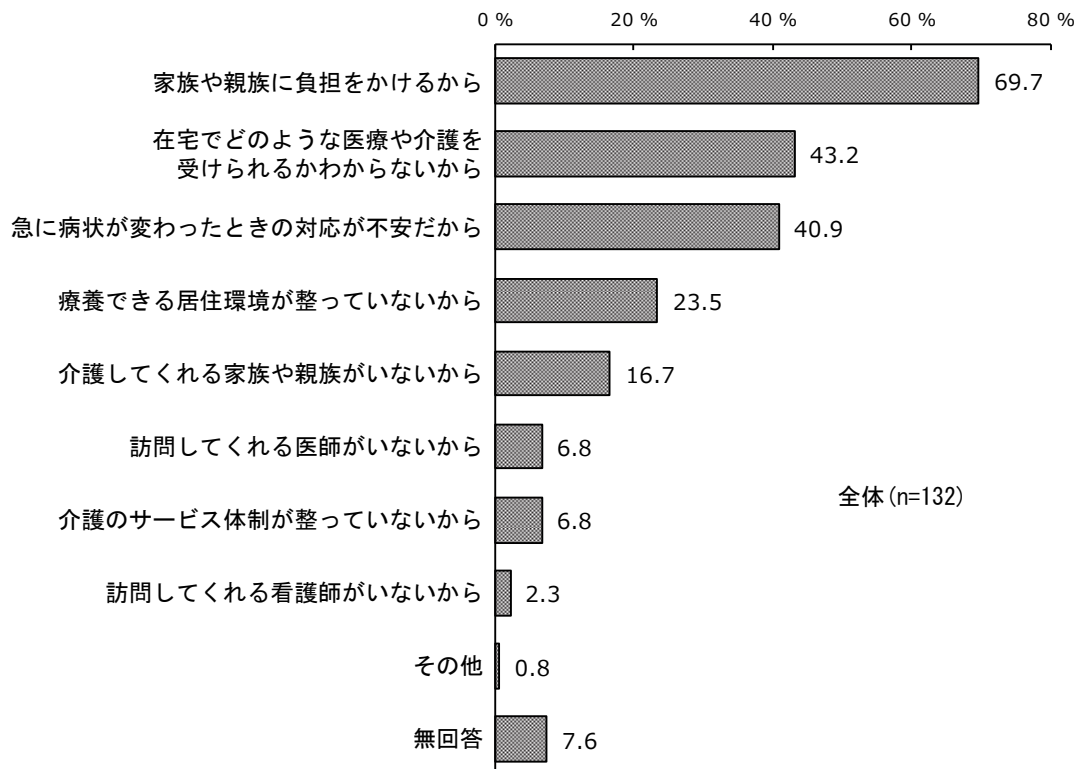


⑥ 在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問16付問2）

在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問16で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問16付問1で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（69.7%）が最も多く、「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから」（43.2%）、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（40.9%）と続いている。

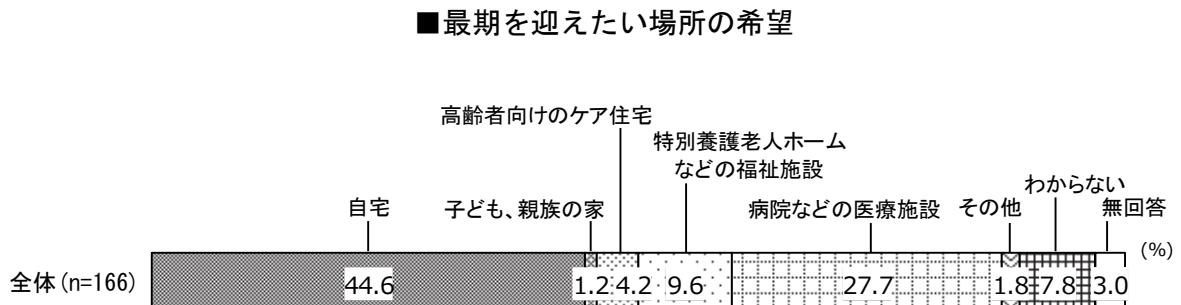
■在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで））

〈在宅での療養を希望しないまたは希望するが難しいと思う人〉



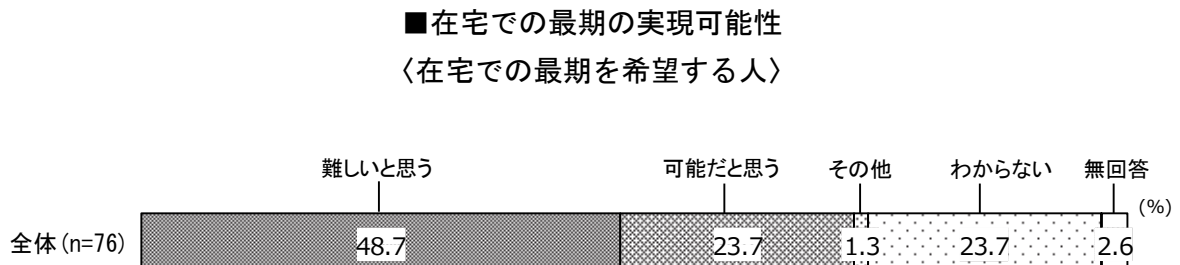
⑦ 最期を迎えたい場所の希望（問17）

最期を迎えたい場所の希望は、「自宅」（44.6%）が最も多く、「病院などの医療施設」（27.7%）、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」（9.6%）と続いている。



⑧ 在宅での最期の実現可能性（問17 付問1）

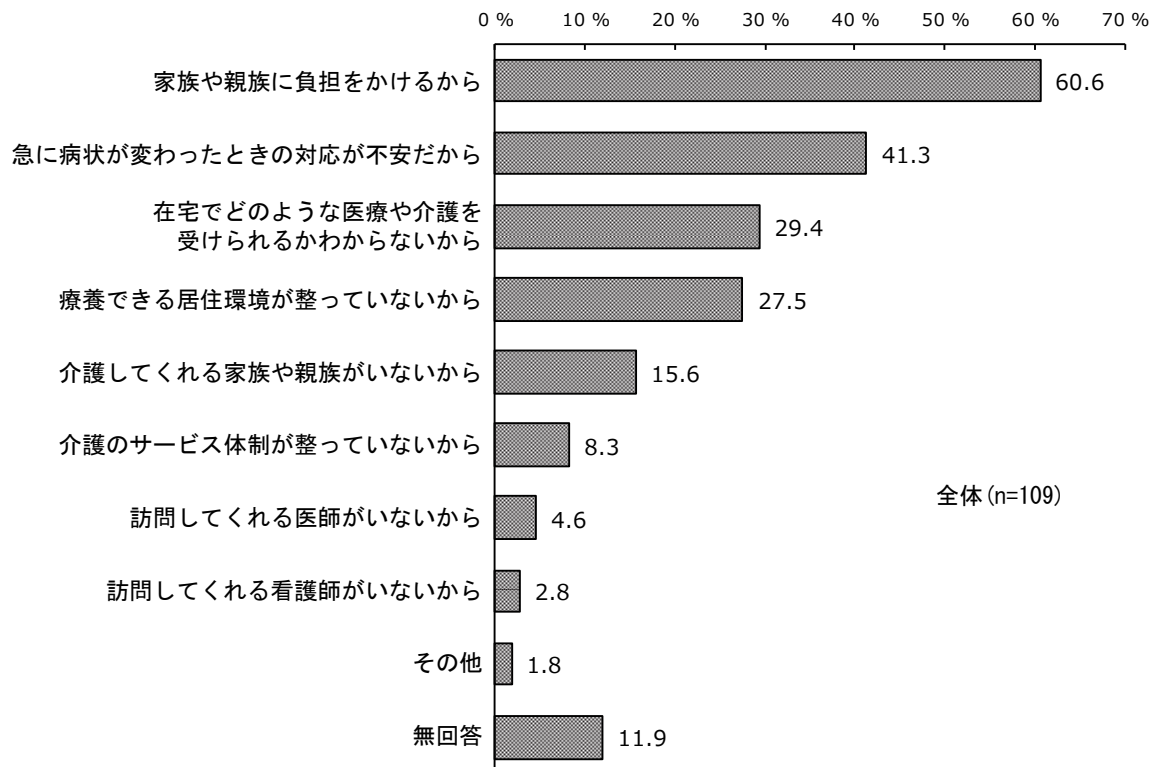
在宅での最期を希望する人（問17で「自宅」「子ども、親族の家」と回答した人）の実現可能性は、「難しいと思う」が48.7%、「可能だと思う」「わからない」（ともに23.7%）と続いている。



⑨ 在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（問17付問2）

在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う人（問17で「高齢者向けのケア住宅」「特別養護老人ホームなどの福祉施設」「病院などの医療施設」「その他」、問17付問1で「難しいと思う」と回答した人）の理由は、「家族や親族に負担をかけるから」（60.6%）が最も多く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（41.3%）、「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからないから」（29.4%）と続いている。

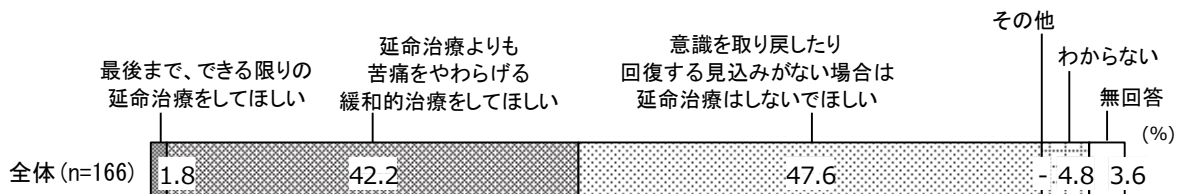
■在宅での最期を希望しないまたは希望するが難しいと思う理由（複数回答（3つまで））



⑩ 延命治療についての希望（問18）

延命治療についての希望は、「意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は延命治療はしないでほしい」（47.6%）が最も多く、「延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい」（42.2%）と続いている。

■延命治療についての希望



⑪ 長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無（問19）

長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無は、「伝えている」が50.6%、「伝えていない」が41.0%となっている。

■長期療養、終末期、延命治療についての家族等への意向表明の有無

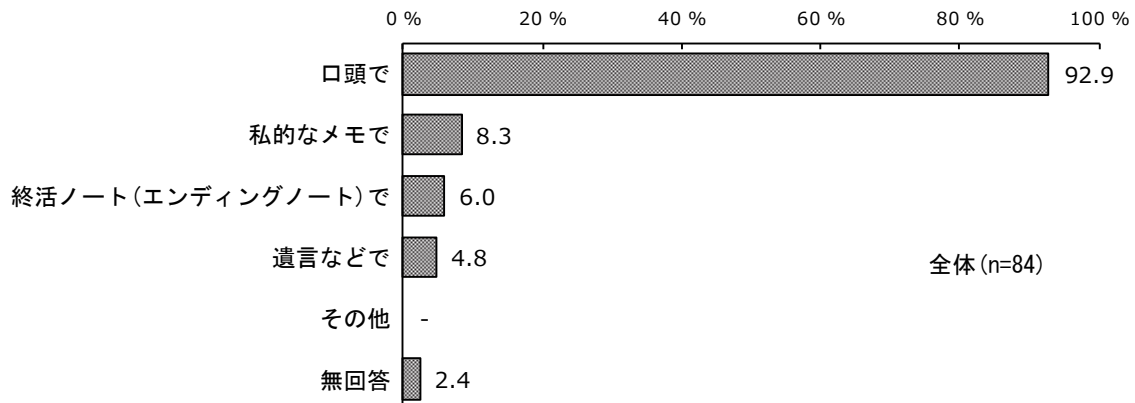


⑫ 長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（問 19 付問 1）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人（問 19 で「伝えている」と回答した人）の伝え方は、「口頭で」（92.9%）が最も多くなっている。

■長期療養、終末期、延命治療についての意向の伝え方（複数回答）

〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えている人〉

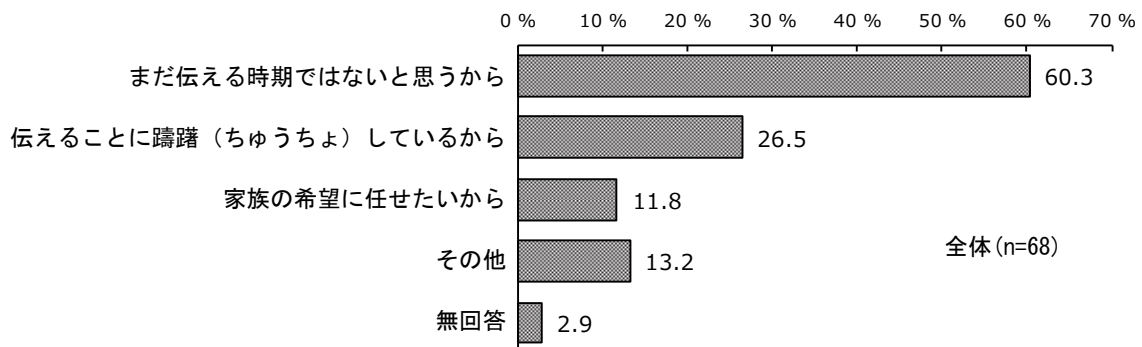


⑬ 長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（問 19 付問 2）

長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人（問 19 で「伝えていない」と回答した人）の理由は、「まだ伝える時期ではないと思うから」（60.3%）が最も多く、「家族の希望に任せたいから」（26.5%）、「伝えることに躊躇しているから」（11.8%）と続いている。

■長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない理由（複数回答）

〈長期療養、終末期、延命治療についての意向を伝えていない人〉



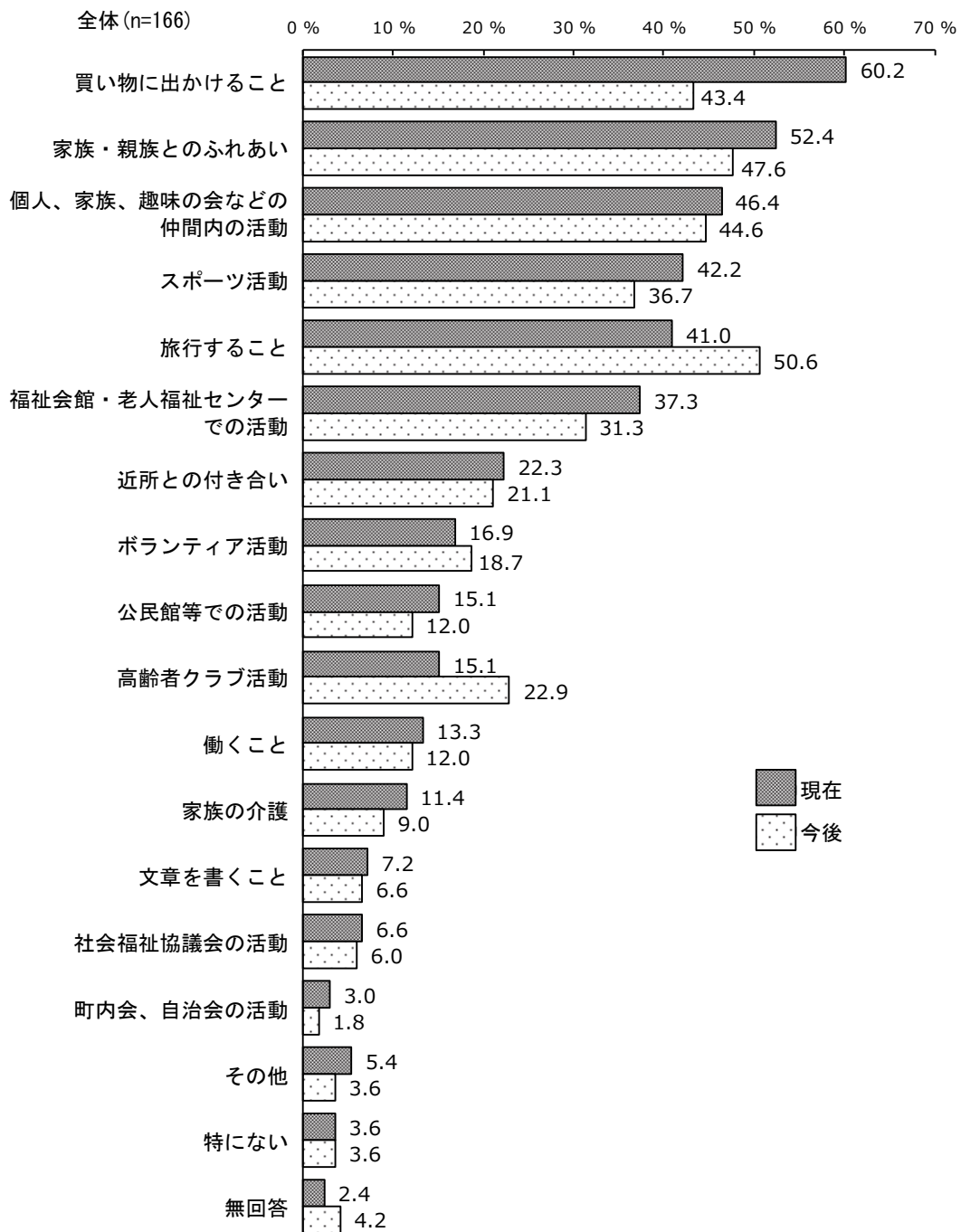
(4) 生きがい

① 継続して行っていること、今後行いたいこと (問 20、問 21)

継続して行っていることは、「買い物に出かけること」(60.2%)が最も多く、「家族・親族とのふれあい」(52.4%)、「個人、家族、趣味の会などの仲間内の活動」(46.4%)と続いている。

今後行いたいことは、「旅行すること」(50.6%)が最も多く、「家族・親族とのふれあい」(47.6%)、「個人、家族、趣味の会などの仲間内の活動」(44.6%)と続いている。

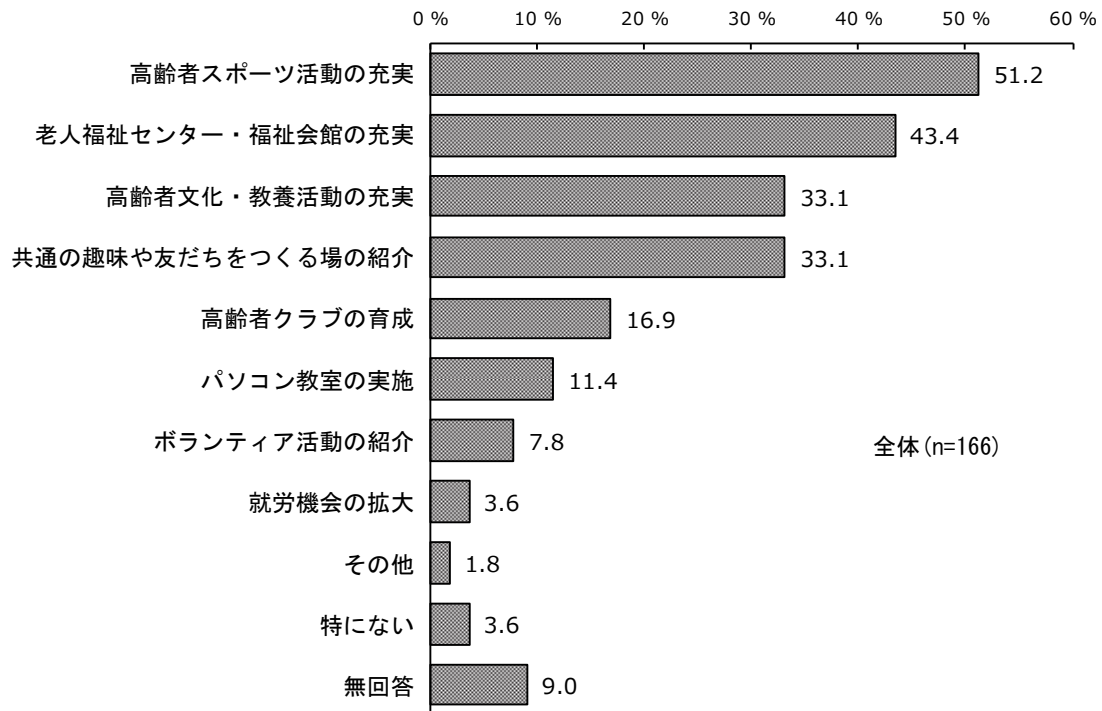
■継続して行っていること、今後行いたいこと (複数回答)



② 高齢者の生きがいがづくりで市に力を入れてほしいこと（問 22）

高齢者の生きがいがづくりで市に力を入れてほしいことは、「高齢者スポーツ活動の充実」(51.2%) が最も多く、「老人福祉センター・福祉会館の充実」(43.4%)、「高齢者文化・教養活動の充実」「共通の趣味や友だちをつくる場の紹介」(ともに 33.1%) と続いている。

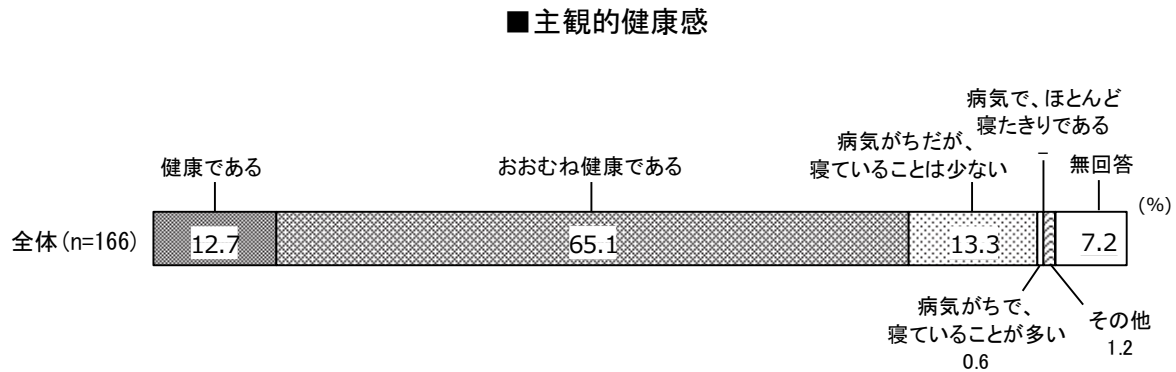
■ 高齢者の生きがいがづくりで市に力を入れてほしいこと（複数回答（3つまで））



(5) 健康管理

① 主観的健康感 (問 23)

主観的健康感は、「おおむね健康である」(65.1%)が最も多く、「病気がちだが、寝ていることは少ない」(13.3%)、「健康である」(12.7%)と続いている。



性・年齢別にみると、“健康”（「健康である」「おおむね健康である」の合計）は女性（81.0%）が男性（65.7%）に比べて多くなっており、女性の85歳以上は「健康である」という回答はなく、「おおむね健康である」が半数となっている。

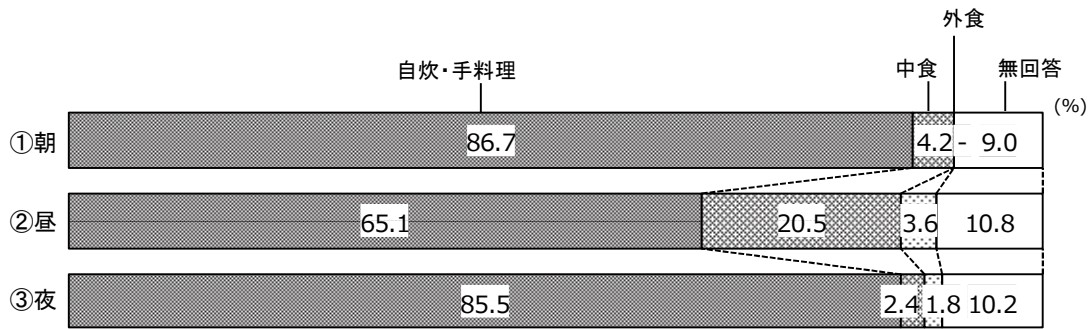
■【性・年齢別】主観的健康感

		(%)						
		健康である	おおむね健康である	病気がちだが、寝ていることは少ない	病気がちで、寝ていることが多い	病気で、ほとんど寝たきりである	その他	無回答
全	体 (n=166)	12.7	65.1	13.3	0.6	-	1.2	7.2
男	性 計 (n=35)	14.3	51.4	20.0	-	-	2.9	11.4
	65～74歳 (n=11)	18.2	45.5	9.1	-	-	9.1	18.2
	75～84歳 (n=21)	9.5	57.1	23.8	-	-	-	9.5
	85歳以上 (n=3)	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-
	無回答 (n=-)	-	-	-	-	-	-	-
女	性 計 (n=126)	12.7	68.3	11.1	0.8	-	0.8	6.3
	65～74歳 (n=46)	19.6	65.2	6.5	2.2	-	2.2	4.3
	75～84歳 (n=69)	10.1	72.5	11.6	-	-	-	5.8
	85歳以上 (n=10)	-	50.0	30.0	-	-	-	20.0
	無回答 (n=1)	-	100.0	-	-	-	-	-

② 食事の状況（問 24）

食事の状況は、朝と夜は「自炊・手料理」が8割台半ばを占めており、昼は「自炊・手料理」が65.1%、「中食」が20.5%となっている。

■食事の状況



※「中食」：持ち帰ってすぐに食べられる総菜やコンビニ弁当などによる食事

③ だれかと一緒に食事をする機会（問 25）

だれかと一緒に食事をする機会は、「1日1回以上」（54.2%）が最も多く、「月1回以上」（20.5%）、「週1回以上」（11.4%）と続いている。

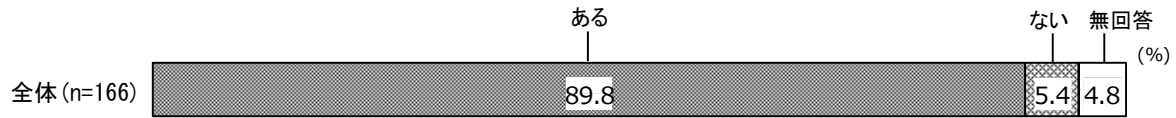
■だれかと一緒に食事をする機会



④ 体調を維持するために行っていることの有無（問26）

体調を維持するために行っていることの有無は、「ある」が89.8%、「ない」が5.4%となっている。

■ 体調を維持するために行っていることの有無



性・年齢別にみると、「ある」が男性、女性ともに9割弱となっており、特に75～84歳の年齢層が多くなっている。

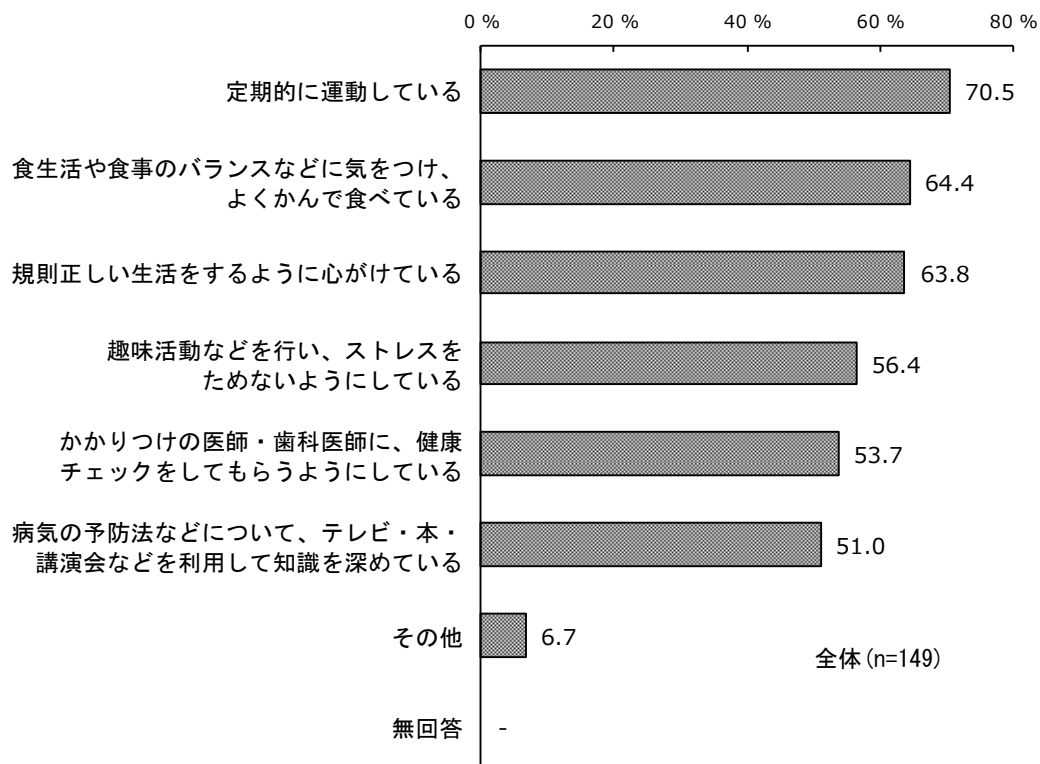
■ 【性・年齢別】 体調を維持するために行っていることの有無

		(%)		
		ある	ない	無回答
全	体 (n=166)	89.8	5.4	4.8
男	性 計 (n=35)	88.6	-	11.4
	65～74歳 (n=11)	81.8	-	18.2
	75～84歳 (n=21)	90.5	-	9.5
	85歳以上 (n=3)	100.0	-	-
	無回答 (n=-)	-	-	-
女	性 計 (n=126)	89.7	7.1	3.2
	65～74歳 (n=46)	84.8	10.9	4.3
	75～84歳 (n=69)	94.2	4.3	1.4
	85歳以上 (n=10)	80.0	10.0	10.0
	無回答 (n=1)	100.0	-	-

⑤ 体調を維持するために行っていること（問 26 付問）

体調を維持するために行っていることがある人（問 26 で「ある」と回答した人）の行っていることは、「定期的に運動している」（70.5%）が最も多く、「食生活や食事のバランスなどに気をつけ、よくかんで食べている」（64.4%）、「規則正しい生活をするように心がけている」（63.8%）と続いている。

■体調を維持するために行っていること（複数回答）
 〈体調を維持するために行っていることがある人〉

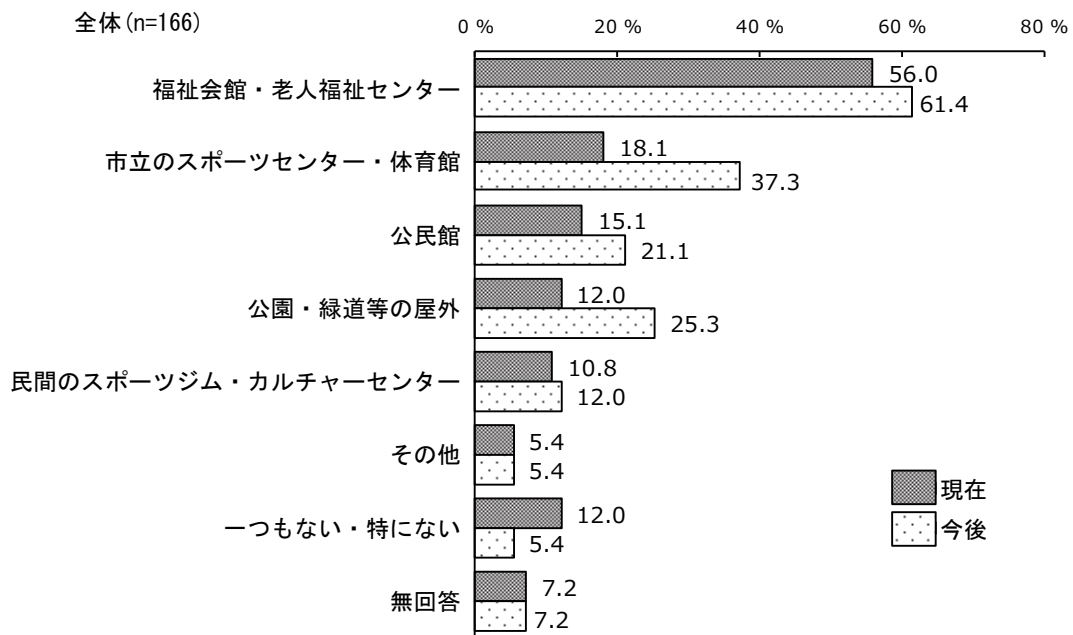


⑥ 健康維持のために現在利用している場所と今後の利用意向（問27）

健康維持のために現在利用している場所は「福社会館・老人福祉センター」（56.0%）が最も多く、「市立のスポーツセンター・体育館」（18.1%）、「公民館」（15.1%）と続いている。

また、健康維持のために今後利用したい場所は、「福社会館・老人福祉センター」（61.4%）が最も多く、「市立のスポーツセンター・体育館」（37.3%）、「公園・緑道等の屋外」（25.3%）と続いている。

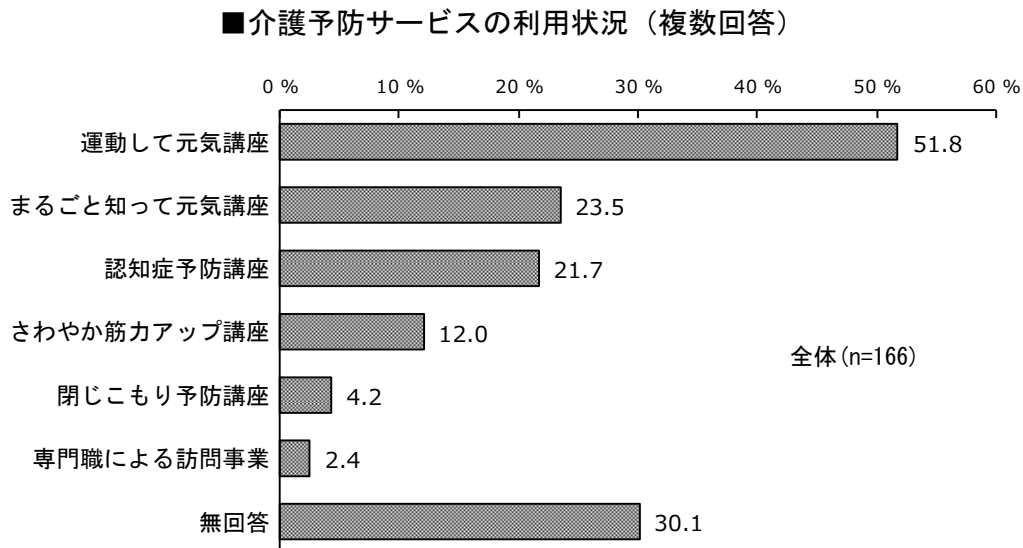
■健康維持のために現在利用している場所と今後の利用意向（複数回答）



(6) 介護予防

① 介護予防サービスの利用状況（問 28）

介護予防サービスの利用状況は、「運動して元気講座（マシンを使ったトレーニング、マシンを使わないトレーニング）（転倒・尿失禁予防講座、接骨院サテライト講座）」（51.8%）が最も多く、「まるごと知って元気講座（栄養・運動・口腔機能向上教室）」（23.5%）、「認知症予防講座」（21.7%）と続いている。



※グラフ中では、以下の選択肢を省略して表記している。

- ・運動して元気講座
（マシンを使ったトレーニング、マシンを使わないトレーニング）
（転倒・尿失禁予防講座、接骨院サテライト講座）
- ・まるごと知って元気講座（栄養・運動・口腔機能向上教室）
- ・さわやか筋力アップ講座（野外健康器具を使ったトレーニング）
- ・専門職による訪問事業（管理栄養士・歯科衛生士・理学療法士による訪問指導）

第2章 各調査の結果

性・年齢別にみると、「さわやか筋力アップ講座」は男性（17.1%）が女性（9.5%）に比べて多くなっている。

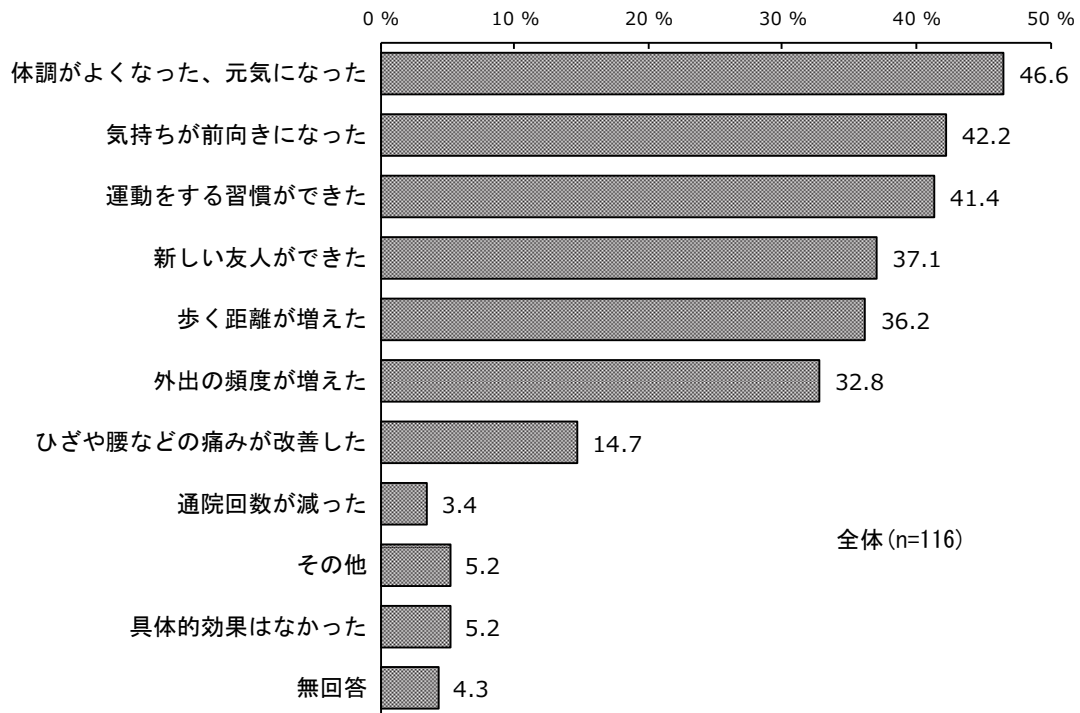
■【性・年齢別】介護予防サービスの利用状況（複数回答）

		(%)						
		運動して 元気講座	まると 知って 元気講座	認知症 予防 講座	さわやか 筋力ア ップ 講座	閉じこ もり予 防講座	専門職 による 訪問事 業	無回 答
全	体 (n=166)	51.8	23.5	21.7	12.0	4.2	2.4	30.1
男 性	男性 計 (n=35)	51.4	22.9	20.0	17.1	8.6	5.7	28.6
	65～74歳 (n=11)	27.3	18.2	18.2	9.1	-	-	36.4
	75～84歳 (n=21)	61.9	28.6	14.3	19.0	9.5	9.5	23.8
	85歳以上 (n=3)	66.7	-	66.7	33.3	33.3	-	33.3
	無回答 (n=-)	-	-	-	-	-	-	-
女 性	女性 計 (n=126)	50.0	23.8	22.2	9.5	3.2	1.6	31.7
	65～74歳 (n=46)	52.2	15.2	15.2	10.9	-	-	37.0
	75～84歳 (n=69)	55.1	31.9	24.6	10.1	4.3	2.9	24.6
	85歳以上 (n=10)	10.0	-	30.0	-	10.0	-	60.0
	無回答 (n=1)	-	100.0	100.0	-	-	-	-

② 利用後の生活や気持ちの変化（問 28 付問）

利用後の生活や気持ちの変化は、「体調がよくなった、元気になった」（46.6%）が最も多く、「気持ちが前向きになった」（42.2%）、「運動をする習慣ができた」（41.4%）と続いている。

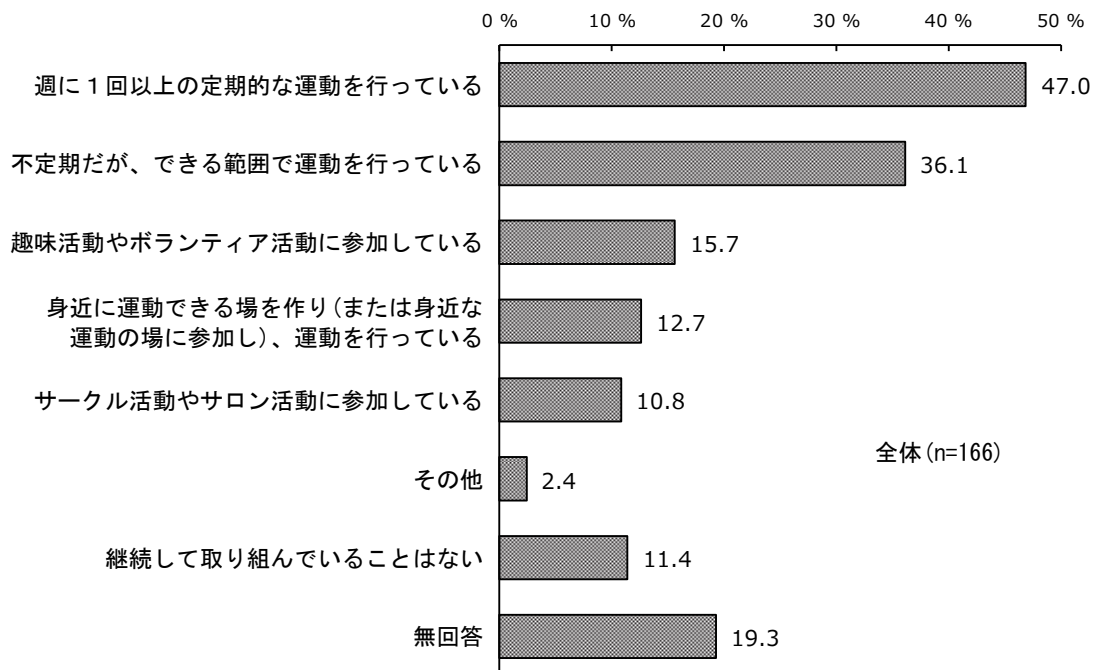
■ 利用後の生活や気持ちの変化（複数回答）



③ 介護予防事業の終了後も継続している取り組み（問29）

介護予防事業の終了後も継続している取り組みは、「週に1回以上の定期的な運動を行っている」（47.0%）が最も多く、「不定期だが、できる範囲で運動を行っている」（36.1%）、「趣味活動やボランティア活動に参加している」（15.7%）と続いており、「継続して取り組んでいることはない」は11.4%となっている。

■介護予防事業の終了後も継続している取り組み（複数回答）



性・年齢別にみると、男性は「不定期だが、できる範囲で運動を行っている」(45.7%)が最も多く、女性は「週に1回以上の定期的な運動を行っている」(48.4%)が最も多くなっている。

■【性・年齢別】介護予防事業の終了後も継続している取り組み（複数回答）

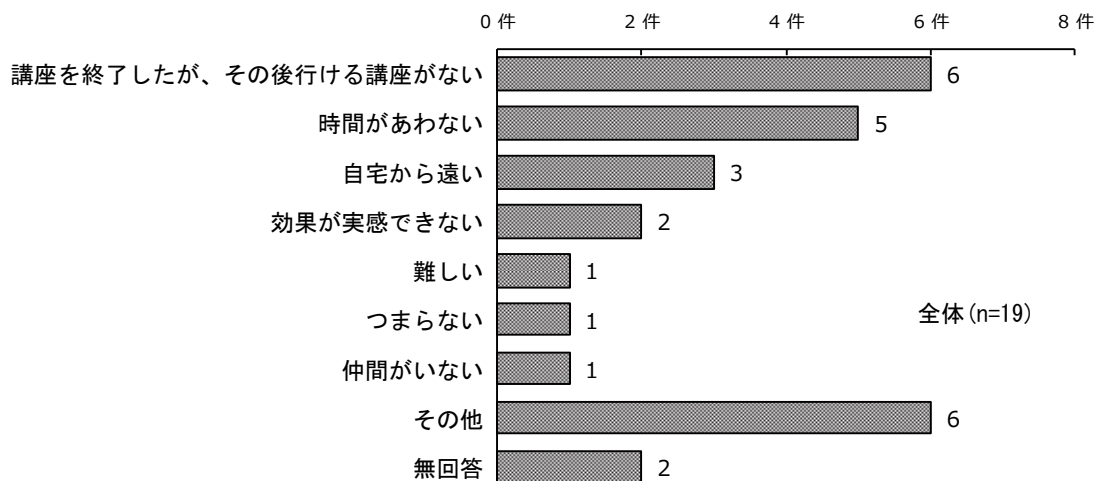
		(%)							
		を週に1回以上の定期的な運動	不定期だが、できる範囲で運動	趣味活動やボランティア活動	（身近）または運動場を作る	参加する活動やサロン活動	その他	は継続して取り組んでいること	無回答
全	体 (n=166)	47.0	36.1	15.7	12.7	10.8	2.4	11.4	19.3
男	性 計 (n=35)	37.1	45.7	25.7	11.4	5.7	5.7	17.1	11.4
	65～74歳 (n=11)	18.2	45.5	27.3	9.1	-	9.1	27.3	-
	75～84歳 (n=21)	47.6	47.6	28.6	9.5	9.5	4.8	14.3	9.5
	85歳以上 (n=3)	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	66.7
	無回答 (n=-)	-	-	-	-	-	-	-	-
女	性 計 (n=126)	48.4	32.5	13.5	11.1	12.7	1.6	10.3	22.2
	65～74歳 (n=46)	41.3	19.6	6.5	6.5	6.5	2.2	15.2	28.3
	75～84歳 (n=69)	56.5	42.0	17.4	14.5	17.4	-	8.7	17.4
	85歳以上 (n=10)	30.0	30.0	20.0	10.0	10.0	10.0	-	20.0
	無回答 (n=1)	-	-	-	-	-	-	-	100.0

④ 介護予防事業の終了後に継続して取り組んでいない理由（問 29 付問）

介護予防事業の終了後に継続して取り組んでいない人（問 29 で「継続して取り組んでいることはない」と回答した人）の理由は、「講座を終了したが、その後行ける講座がない」「その他」（ともに6件）が最も多く、次いで「時間があわない」（5件）が多くなっている。

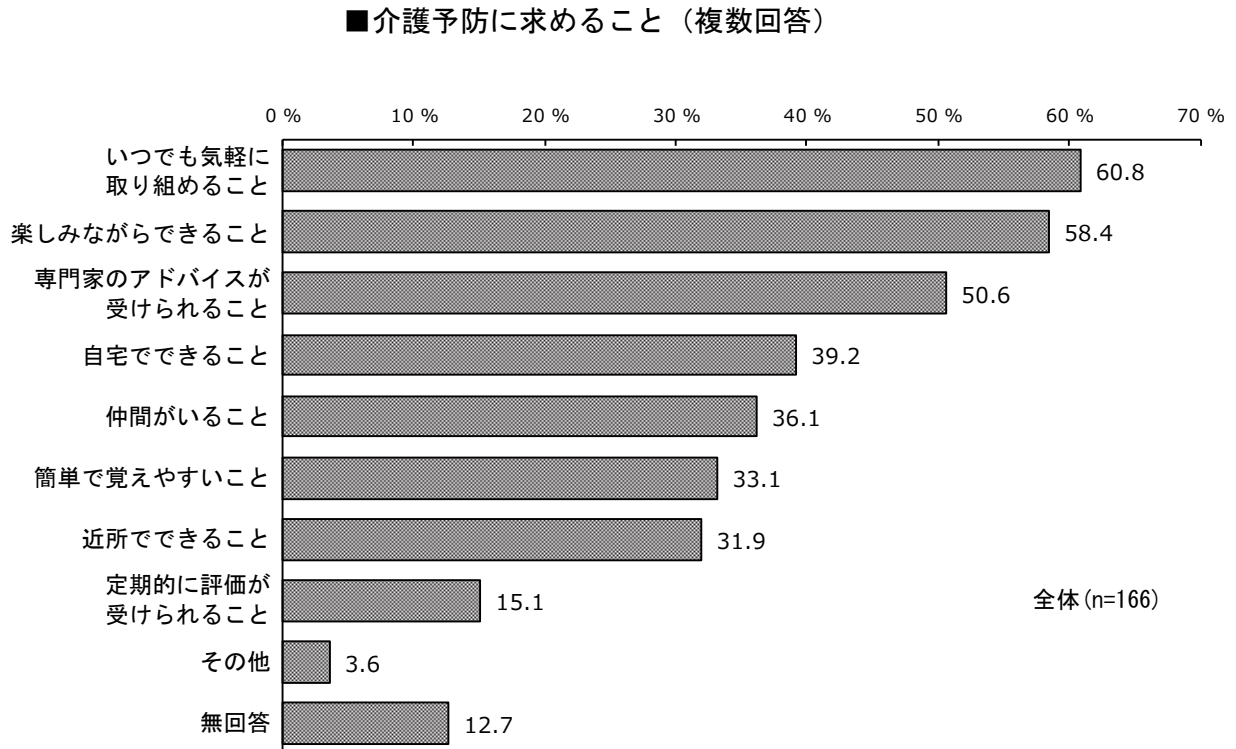
■介護予防事業の終了後に継続して取り組んでいない理由（複数回答）

〈介護予防事業の終了後に継続して取り組んでいない人〉



⑤ 介護予防に求めること（問30）

介護予防に求めることは、「いつでも気軽に取り組めること」（60.8%）が最も多く、「楽しみながらできること」（58.4%）、「専門家のアドバイスが受けられること」（50.6%）と続いている。



性・年齢別にみると、「自宅でできること」「定期的な評価を受けられること」は男性が女性に比べて多く、「楽しみながらできること」「仲間がいること」「近所でできること」は女性が男性に比べて多くなっている。

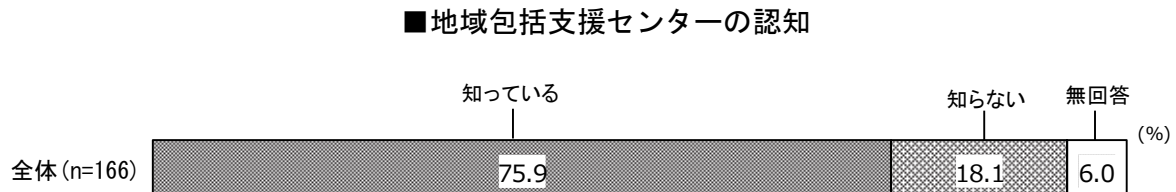
■ 【性・年齢別】 これからの介護予防に求めること（複数回答）

		いつでも 気軽に 取り 組 め る こ と	楽 し み な が ら で き る こ と	専 門 家 の ア ド バ イ ス が 受 け ら れ る こ と	自 宅 で で き る こ と	仲 間 が い る こ と	と 簡 単 で 覚 え や す い こ と	近 所 で で き る こ と	ら 定 期 的 に 評 価 が 受 け ら れ る こ と	そ の 他	無 回 答
全	体 (n=166)	60.8	58.4	50.6	39.2	36.1	33.1	31.9	15.1	3.6	12.7
男 性	男性 計 (n=35)	62.9	51.4	51.4	45.7	28.6	37.1	20.0	20.0	11.4	8.6
	65～74歳 (n=11)	63.6	54.5	45.5	54.5	9.1	54.5	18.2	27.3	18.2	-
	75～84歳 (n=21)	61.9	57.1	57.1	47.6	38.1	33.3	19.0	14.3	9.5	9.5
	85歳以上 (n=3)	66.7	-	33.3	-	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3
	無回答 (n=-)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女 性	女性 計 (n=126)	59.5	61.1	50.0	38.1	38.9	32.5	33.3	14.3	1.6	14.3
	65～74歳 (n=46)	58.7	65.2	50.0	21.7	39.1	34.8	43.5	13.0	-	17.4
	75～84歳 (n=69)	65.2	60.9	52.2	52.2	39.1	30.4	26.1	17.4	1.4	10.1
	85歳以上 (n=10)	30.0	50.0	40.0	20.0	40.0	40.0	40.0	-	10.0	20.0
	無回答 (n=1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(7) 介護保険制度

① 地域包括支援センターの認知 (問 31)

地域包括支援センターの認知は、「知っている」が75.9%、「知らない」が18.1%となっている。



性・年齢別にみると、「知っている」は男性(80.0%)が女性(74.6%)を上回っており、男性、女性ともに75～84歳が多くなっている。

■【性・年齢別】地域包括支援センターの認知

(%)

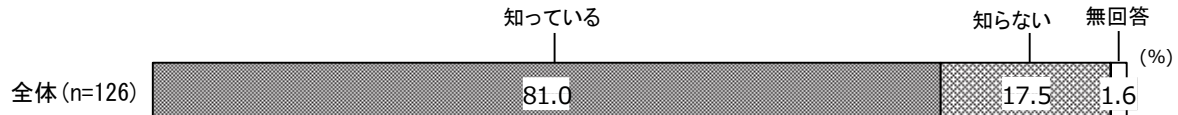
		知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全	体 (n=166)	75.9	18.1	6.0
男 性	男性 計 (n=35)	80.0	14.3	5.7
	65～74歳 (n=11)	72.7	27.3	-
	75～84歳 (n=21)	85.7	9.5	4.8
	85歳以上 (n=3)	66.7	-	33.3
	無回答 (n=-)	-	-	-
女 性	女性 計 (n=126)	74.6	19.0	6.3
	65～74歳 (n=46)	60.9	30.4	8.7
	75～84歳 (n=69)	84.1	10.1	5.8
	85歳以上 (n=10)	70.0	30.0	-
	無回答 (n=1)	100.0	-	-

第2章 各調査の結果

② 地域包括支援センターの場所の認知（問 31 付問）

地域包括支援センターを知っている人（問 31 で「知っている」と回答した人）の場所の認知は、「知っている」が 81.0%、「知らない」が 17.5%となっている。

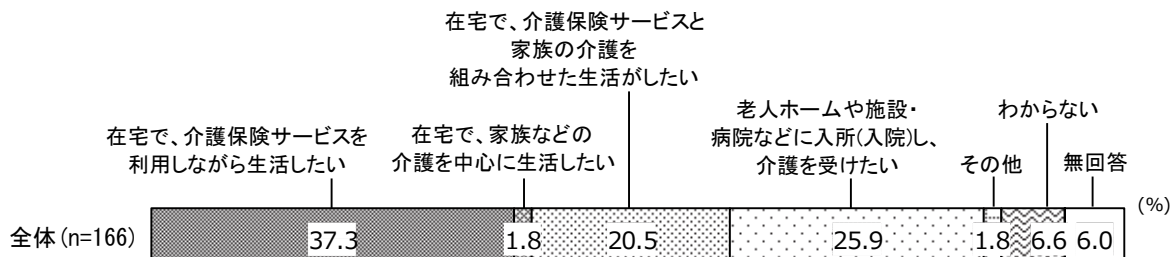
■地域包括支援センターの場所の認知
〈地域包括支援センターを知っている人〉



③ 介護が必要になった場合に生活したい場所（問 32）

介護が必要になった場合に生活したい場所は、「在宅で、介護保険サービスを利用しながら生活したい」(37.3%) が最も多く、「老人ホームや施設・病院などに入所(入院)し、介護を受けたい」(25.9%)、「在宅で、介護保険サービスと家族の介護を組み合わせたい生活がしたい」(20.5%) と続いている。

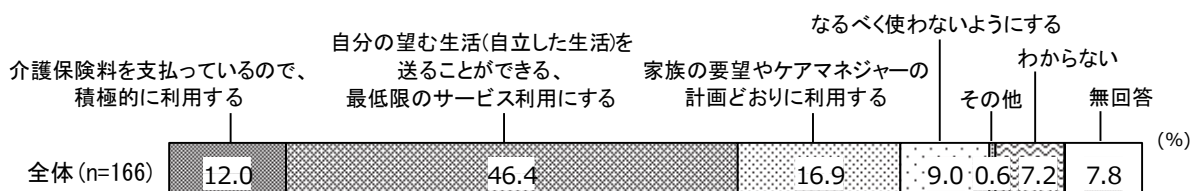
■介護が必要になった場合に生活したい場所



④ 介護保険サービスの利用についての考え（問 33）

介護保険サービスの利用についての考えは、「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(46.4%) が最も多く、「家族の要望やケアマネジャーの計画どおりに利用する」(16.9%)、「介護保険料を支払っているので、積極的に利用する」(12.0%) と続いている。

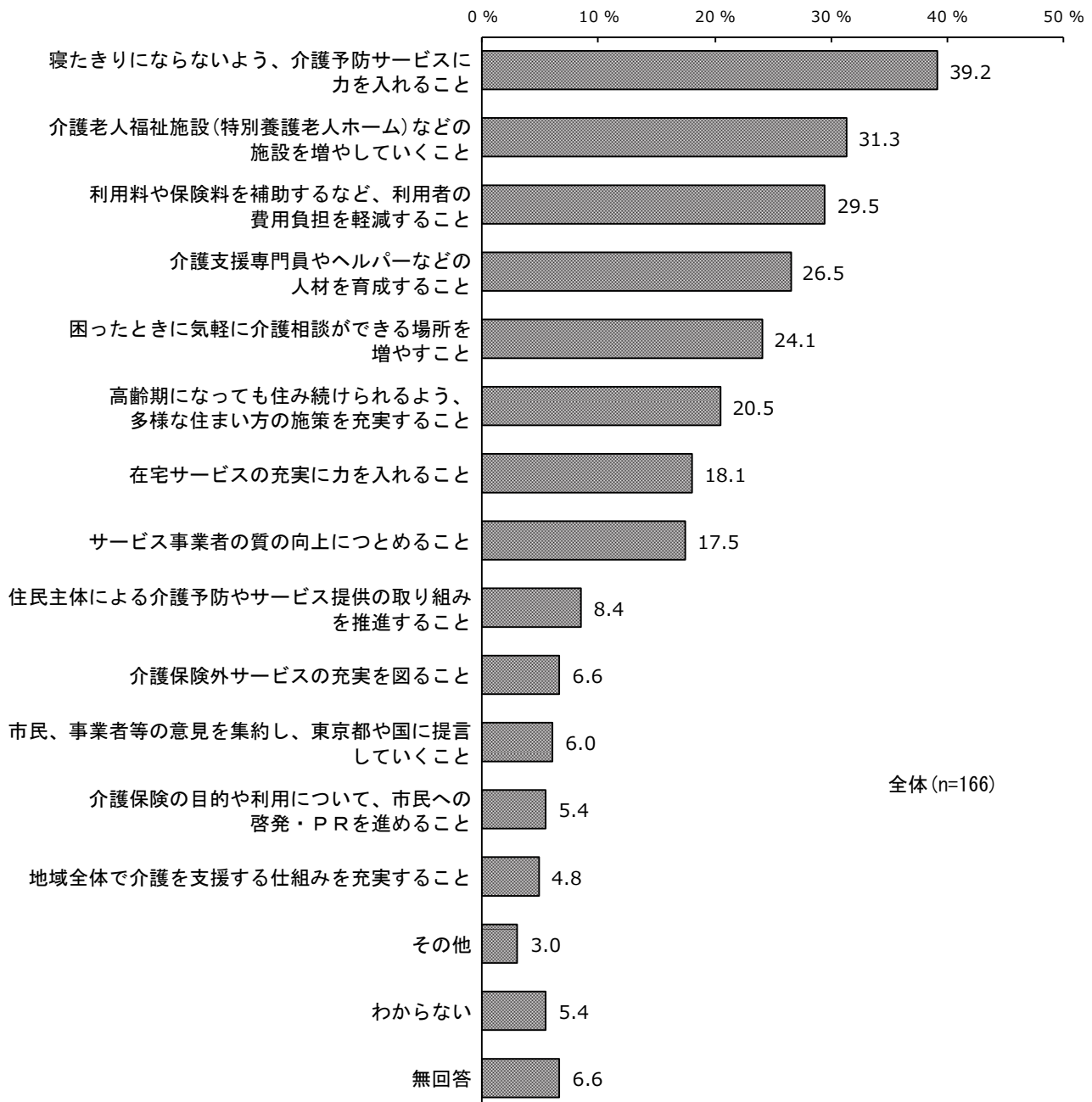
■介護保険サービスの利用についての考え



⑤ 介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（問 34）

介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「寝たきりにならないよう、介護予防サービスに力を入れること」（39.2%）が最も多く、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）などの施設を増やしていくこと」（31.3%）、「利用料や保険料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること」（29.5%）と続いている。

■介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（複数回答（3つまで））



第2章 各調査の結果

性・年齢別にみると、「利用料や保険料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること」「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと」「在宅サービスの充実に力を入れること」は男性が女性に比べて多く、「寝たきりにならないよう、介護予防サービスに力を入れること」「高齢期になっても住み続けられるよう、多様な住まい方の施策を充実すること」は女性が男性に比べて多くなっている。

■【性・年齢別】介護保険制度全体をよりよくするために 市が力を入れるべきこと（複数回答（3つまで））

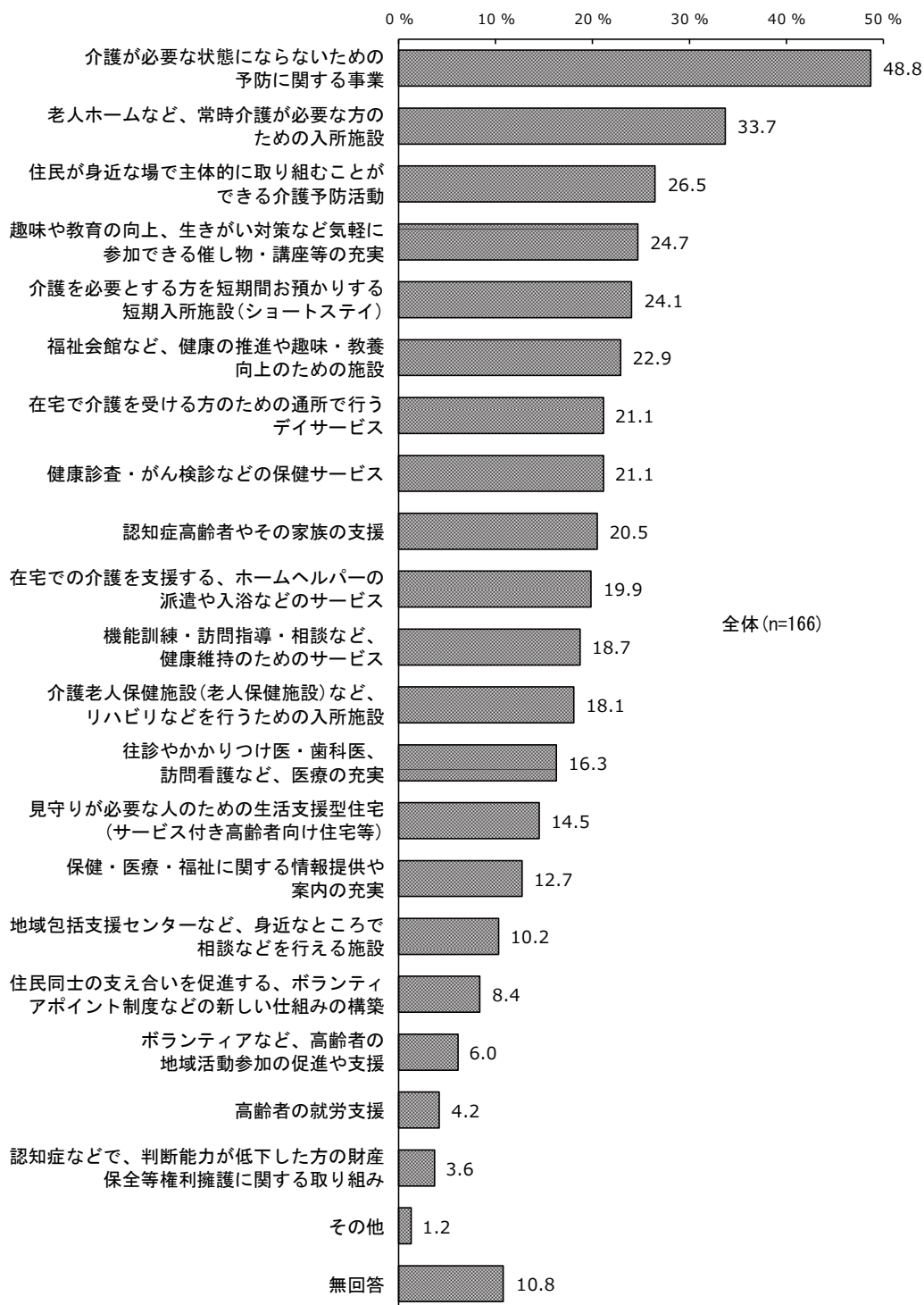
		介護予防サービスに力を入れること	寝たきりにならないよう、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）などの増やしていくこと	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）などの増やしていくこと	利用料や保険料を補助する、軽減すること	介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること	困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	高齢期になっても住み続けられるよう、多様な住まい方の施策を充実すること	在宅サービスの充実に力を入れること	サービス事業者の質の向上につとめること
全体	(n=166)	39.2	31.3	29.5	26.5	24.1	20.5	18.1	17.5	
男性	男性計 (n=35)	28.6	34.3	37.1	31.4	31.4	11.4	25.7	20.0	
	65～74歳 (n=11)	9.1	18.2	9.1	36.4	36.4	18.2	45.5	27.3	
	75～84歳 (n=21)	42.9	38.1	52.4	33.3	33.3	9.5	19.0	19.0	
	85歳以上 (n=3)	-	66.7	33.3	-	-	-	-	-	
	無回答 (n=-)	-	-	-	-	-	-	-	-	
女性	女性計 (n=126)	42.1	31.0	27.8	26.2	23.0	21.4	16.7	17.5	
	65～74歳 (n=46)	37.0	34.8	41.3	19.6	17.4	21.7	17.4	19.6	
	75～84歳 (n=69)	40.6	24.6	21.7	30.4	27.5	21.7	17.4	18.8	
	85歳以上 (n=10)	80.0	50.0	10.0	30.0	20.0	20.0	10.0	-	
	無回答 (n=1)	-	100.0	-	-	-	-	-	-	
全体	(n=166)	8.4	6.6	6.0	5.4	4.8	3.0	5.4	6.6	
男性	男性計 (n=35)	11.4	8.6	2.9	5.7	2.9	2.9	2.9	5.7	
	65～74歳 (n=11)	18.2	18.2	-	9.1	9.1	9.1	9.1	-	
	75～84歳 (n=21)	9.5	4.8	-	4.8	-	-	-	4.8	
	85歳以上 (n=3)	-	-	33.3	-	-	-	-	33.3	
	無回答 (n=-)	-	-	-	-	-	-	-	-	
女性	女性計 (n=126)	7.1	5.6	7.1	5.6	5.6	2.4	6.3	7.1	
	65～74歳 (n=46)	13.0	4.3	6.5	6.5	6.5	2.2	4.3	8.7	
	75～84歳 (n=69)	4.3	4.3	8.7	4.3	5.8	-	8.7	7.2	
	85歳以上 (n=10)	-	20.0	-	10.0	-	10.0	-	-	
	無回答 (n=1)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	

(8) 市の介護保険・保健福祉サービス

① 市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービス (問 35)

市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービスは、「介護が必要な状態にならないための予防に関する事業」(48.8%)が最も多く、「老人ホームなど、常時介護が必要な方のための入所施設」(33.7%)、「住民が身近な場で主体的に取り組むことができる介護予防活動」(26.5%)と続いている。

■市が取り組むべき介護保険・保健福祉サービス (複数回答 (5つまで))



第2章 各調査の結果

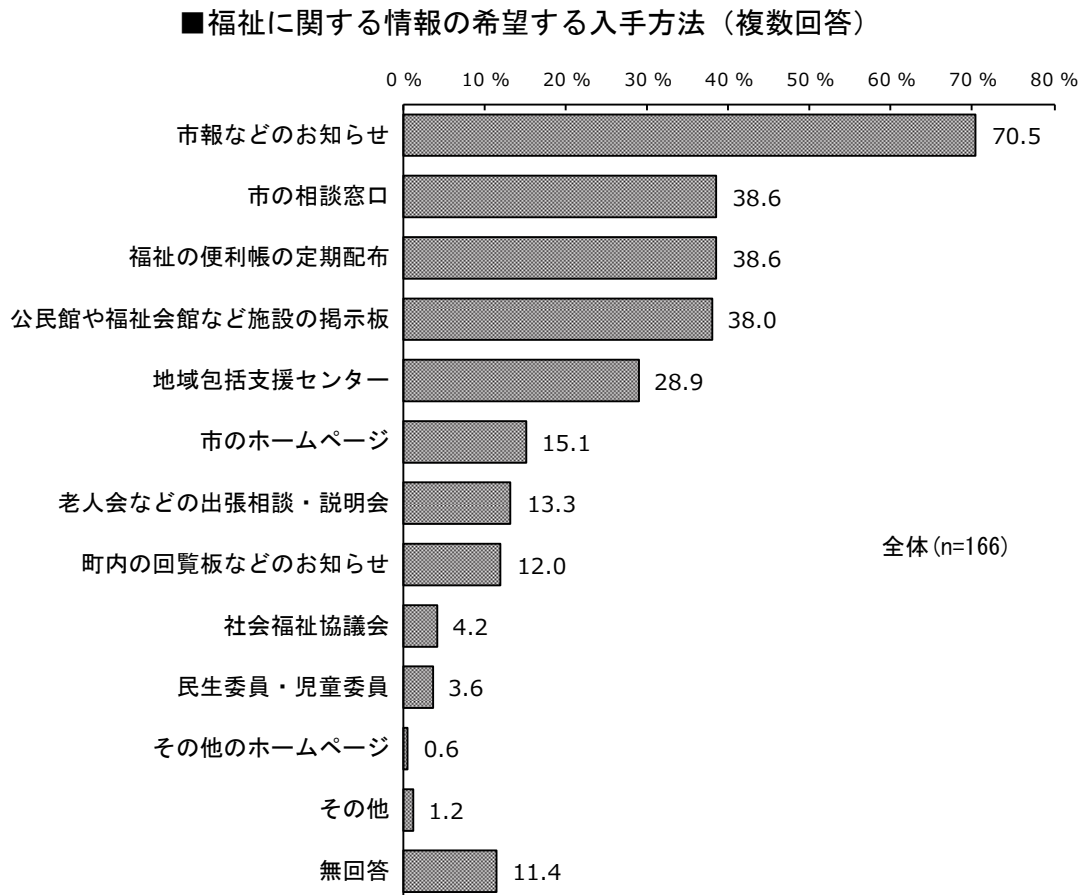
性・年齢別にみると、「健康診査・がん検診などの保健サービス」「在宅での介護を支援する、ホームヘルパーの派遣や入浴などのサービス」は男性が女性に比べて多く、「見守りが必要な人のための生活支援型住宅(サービス付き高齢者向け住宅等)」は女性が男性に比べて多くなっている。また、「健康診査・がん検診などの保健サービス」は年齢層が高くなるほど多くなる傾向がみられる。

■【性・年齢別】市が取り組む介護保険・保健福祉サービスとして優先して
充実すべきこと(複数回答(5つまで))

		介護の予防に関する事業	老人ホームなどの常時介護が必要な方のための入所施設	住民が身近な場で主体的に防	生活・講座等の充実	趣味や教育の向上、生きがいを催す	お預かりする短期入所施設(ショートステイ)	介護を必要とする方を短期入所施設や	福祉会館など、健康の推進や	在宅で介護を受ける方のため	健康診査・がん検診などの保	認知症高齢者やその家族の支	在宅での介護を支援する、ホームヘルパーの派遣や入浴	その他	無回答
全体	(n=166)	48.8	33.7	26.5	24.7	24.1	24.1	22.9	21.1	21.1	20.5	19.9	18.7		
男性	男性計 (n=35)	54.3	28.6	31.4	28.6	20.0	31.4	22.9	37.1	14.3	31.4	25.7			
	65~74歳 (n=11)	63.6	27.3	45.5	27.3	18.2	9.1	18.2	27.3	36.4	18.2	27.3			
	75~84歳 (n=21)	57.1	28.6	28.6	33.3	19.0	38.1	28.6	38.1	-	42.9	19.0			
	85歳以上 (n=3)	-	33.3	-	-	33.3	66.7	-	66.7	33.3	-	66.7			
	無回答 (n=-)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
女性	女性計 (n=126)	47.6	35.7	25.4	23.8	24.6	21.4	19.8	15.9	22.2	17.5	17.5			
	65~74歳 (n=46)	45.7	43.5	19.6	23.9	21.7	28.3	19.6	10.9	30.4	10.9	17.4			
	75~84歳 (n=69)	44.9	26.1	26.1	23.2	23.2	20.3	23.2	17.4	17.4	24.6	20.3			
	85歳以上 (n=10)	80.0	60.0	40.0	30.0	40.0	-	-	30.0	10.0	-	-			
	無回答 (n=1)	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-		
全体	(n=166)	18.1	16.3	14.5	12.7	10.2	8.4	6.0	4.2	3.6	1.2	10.8			
男性	男性計 (n=35)	11.4	11.4	2.9	20.0	5.7	14.3	11.4	11.4	8.6	2.9	2.9			
	65~74歳 (n=11)	9.1	18.2	-	9.1	-	36.4	27.3	9.1	-	9.1	-			
	75~84歳 (n=21)	14.3	4.8	-	23.8	9.5	-	4.8	14.3	14.3	-	4.8			
	85歳以上 (n=3)	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-			
	無回答 (n=-)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
女性	女性計 (n=126)	20.6	18.3	16.7	11.1	10.3	7.1	4.0	2.4	2.4	0.8	13.5			
	65~74歳 (n=46)	19.6	13.0	21.7	8.7	4.3	6.5	4.3	-	-	-	15.2			
	75~84歳 (n=69)	20.3	23.2	14.5	13.0	15.9	8.7	4.3	4.3	2.9	1.4	14.5			
	85歳以上 (n=10)	20.0	10.0	10.0	10.0	-	-	-	-	10.0	-	-			
	無回答 (n=1)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

② 福祉に関する情報の希望する入手方法（問 36）

福祉に関する情報の希望する入手方法は、「市報などのお知らせ」（70.5%）が最も多く、「市の相談窓口」「福祉の便利帳の定期配布」（ともに 38.6%）、「公民館や福祉会館など施設の掲示板」（38.0%）と続いている。



第2章 各調査の結果

性・年齢別にみると、「地域包括支援センター」は男性が女性に比べて多く、「福祉の便利帳の定期配布」は女性が男性に比べて多くなっており、「市のホームページ」は男性の65～74歳で多くなっている。

■【性・年齢別】福祉に関する情報などの提供方法の希望（複数回答）

		(%)							
		市報などのお知らせ	市の相談窓口	福祉の便利帳の定期配布	公民館や福祉会館などの施設掲示板	地域包括支援センター	市のホームページ	老人会などの出張相談会	
全体	(n=166)	70.5	38.6	38.6	38.0	28.9	15.1	13.3	
男性	男性計	(n=35)	74.3	40.0	31.4	34.3	45.7	22.9	20.0
	65～74歳	(n=11)	81.8	36.4	18.2	27.3	36.4	45.5	18.2
	75～84歳	(n=21)	66.7	42.9	38.1	42.9	47.6	14.3	19.0
	85歳以上	(n=3)	100.0	33.3	33.3	-	66.7	-	33.3
	無回答	(n=-)	-	-	-	-	-	-	-
女性	女性計	(n=126)	69.8	38.9	41.3	38.9	25.4	12.7	11.1
	65～74歳	(n=46)	80.4	39.1	39.1	41.3	15.2	13.0	2.2
	75～84歳	(n=69)	60.9	40.6	40.6	34.8	33.3	13.0	17.4
	85歳以上	(n=10)	80.0	30.0	50.0	50.0	20.0	10.0	10.0
	無回答	(n=1)	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-
		お町内の回覧板などの	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	その他のホームページ	その他	無回答		
全体	(n=166)	12.0	4.2	3.6	0.6	1.2	11.4		
男性	男性計	(n=35)	5.7	8.6	5.7	-	2.9	5.7	
	65～74歳	(n=11)	9.1	9.1	-	-	-	-	
	75～84歳	(n=21)	-	9.5	4.8	-	-	9.5	
	85歳以上	(n=3)	33.3	-	33.3	-	33.3	-	
	無回答	(n=-)	-	-	-	-	-	-	
女性	女性計	(n=126)	14.3	3.2	3.2	0.8	0.8	12.7	
	65～74歳	(n=46)	13.0	-	-	-	-	10.9	
	75～84歳	(n=69)	15.9	4.3	5.8	1.4	-	15.9	
	85歳以上	(n=10)	10.0	10.0	-	-	-	-	
	無回答	(n=1)	-	-	-	-	100.0	-	

③ 高齢者保健福祉サービス、介護保険制度への意見・要望（問 37）

高齢者保健福祉サービス、介護保険制度について、自由記述形式でうかがい、内容ごとに分類・整理を行った。主な意見は、以下のとおりとなっている。

◇介護予防・通いの場について

- ・マシンを使ったトレーニングを利用して3年になるが、大いに有効だと思っている。もっと多くの高齢者が利用できるようこれからも積極的に推進してほしい。
- ・シニアの体操教室を利用しているが、抽選に漏れると他に通う場がなくなる。
- ・健康体操等参加したい人が全員できるようにしてほしい。

◇情報提供について

- ・地域会館などにもチラシや保健福祉の資料を置くと都合がいい。
- ・相談の場所が分からない。

◇移動手段について

- ・バスの本数が少ないため、乗り継ぎができず、交通の便が悪い。
- ・ひとりで買い物に行きたいが、歩くのがしんどい人は大勢いると思う。

◇在宅療養支援について

- ・ひとり暮らしの高齢者の生活援助が必要。子どもが遠方にいたり、夫婦共働きの場合、頼ることができず、老人ホーム以外考えられなくなる。
- ・市の福祉サービスと介護保険制度の利用で自宅介護が可能な体制づくりを切に希望する。